

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

(令和元年度事業)

令和2年11月

山元町教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	点検及び評価の趣旨	1
2	点検及び評価に対する事務の対象	1
3	点検及び評価の実施方法	1
4	評価結果の取扱い	1
II	山元町教育振興基本計画	
1	基本方針	2
2	計画の目標	2
3	基本方向と基本施策	3
	基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成	3
	基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成	3
	基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり	3
	基本方向4 家庭・地域・学校が協働して 子どもを育てる環境づくり	4
	基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進	4
	基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進	4
	基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚	4
III	点検及び評価の結果	
1	教育委員会の活動	5
2	教育関係経費決算の状況	8
3	学校教育の充実	9
4	生涯学習の充実	17
5	点検評価表（山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表）	29
IV	学識経験者の意見書	82
V	参考法令	86

山元町教育委員会に関する点検評価報告書

I はじめに

1 点検及び評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

山元町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たすことを目的として、教育委員会の事務の点検及び評価を実施し、その結果を報告書としてまとめました。

2 点検及び評価に対する事務の対象

「山元町教育振興基本計画（アクションプラン）」に定める施策に関する事務事業のうち、令和元年度において教育行政の推進上、重要な課題に係るもの及び重点的、継続的な事業等（昨年度の事務事業において課題があるとされているもので継続して評価すべき事業）その他点検評価を行うことが必要と認める事業を対象としました。

3 点検及び評価の実施方法

点検及び評価については、対象事業ごとに必要性、効率性、公平性の観点から教育委員会事務局内部による自己総合評価を行い、さらに点検評価の客観性を確保するために教育に関する有識者の意見を聴取し、点検評価表を作成しました。令和元年度の山元町教育委員会が所管する事業の取り組み状況を総括するとともに、そこでの課題や、今後の方向性を示しつつ、学識経験者の意見を付したうえで取りまとめを行うものとします。

なお、結果を取りまとめた報告書については、山元町議会に提出するとともに、公表するものとします。

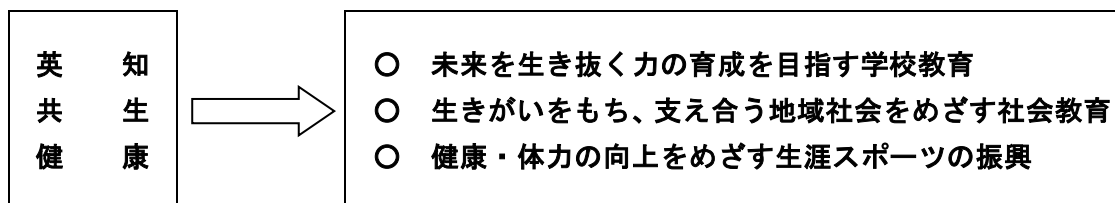
4 評価結果の取扱い

この点検評価結果については、評価の高い事業については、引き続き実施し評価の低い事業については、課題や問題の解決を行うと同時に事業の見直しについて検討し、翌年度以降における施策、事業の改善に役立てるものとします。

Ⅱ 山元町教育振興基本計画（平成 29 年度～令和 3 年度）

1 基本方針

復興から新しいまちづくりをめざす山元町の豊かな自然と風土の中で、家庭及び地域の教育力を生かし、心豊かでたくましい人間形成を図るとともに町民の生涯にわたる学習の充実を努める。



2 計画の目標

本町教育が 5 年間で目指す姿の実現に向けて、具体的には、4 つを「計画の目標」として取り組みます。

- 目標 1 夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。
- 目標 2 家庭・地域・学校の教育力の充実と連携の強化を図り、山元の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。
- 目標 3 次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育むとともに他国の文化の理解を深める。
- 目標 4 生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

3 基本方向と基本施策

本計画では、目指す姿の実現を目指し、4つの計画目標のもと、7つの基本方向及び基本施策に取り組みます。

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成

- (1) 「志教育」の推進
- (2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 重点的事項①
- (3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 重点的事項②
- (4) 時代の要請に応えた教育の推進
- (5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

- (1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 重点的事項③
- (2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 重点的事項④
- (3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成
- (4) 心身の健康を保つ学校保健の充実

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

- (1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 重点的事項⑤
- (2) 「みのりプロジェクト」(学校教育充実事業) 推進による学校教育の充実 重点的事項⑥
- (3) 豊かな学びを創造するコミュニティ・スクールの推進

- (4) 学習環境の整備充実と再編に伴う廃校となる校舎等の活用
- (5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

- (1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり
- (2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑦**
- (3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑧**
- (4) 家庭教育の充実

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

- (1) 伝統・文化の尊重
- (2) 国際理解を育む教育 **重点的事項⑨**

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

- (1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進
- (2) 文化財の保護と活用
- (3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑩**

基本方向7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚

- (1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑪**
- (2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加
- (3) 震災遺構の活用

Ⅲ 点検及び評価の結果

1 教育委員会の活動について

山元町教育委員会は、山元町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4人の委員により組織される合議制の執行機関であり、その権限に属する教育に関する事務を管理執行しています。

平成28年10月1日からは、一部改正後の地教行法の規程に基づき、委員長と教育長を一本化した新教育長が任命され、事務を執行しています。(新制度)

教育委員会の会議は、毎月定例会を開催し(必要に応じて臨時会を開催します。)、各種議案の審議などを行います。

また、小・中学校や社会教育施設の実情等を把握するとともに、学校経営・授業等に対し指導助言を行うため、学校や社会教育施設を訪問しています。

(1) 教育委員会委員

①平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

職名	氏名	任期
教育長	菊池卓郎	平成28年10月1日～令和4年9月30日
教育長職務代理者	大内悦夫	平成24年4月1日～令和2年3月31日
委員	齋藤房江	平成26年10月1日～令和4年3月31日
委員	菅野正彦	平成29年7月1日～令和3年3月31日
委員	古泉可奈	平成31年4月1日～令和5年3月31日

(2) 定例会の開催について

区分	期日	付議事件等(主な審議事項を掲載)
第1回定例会	平成31年4月23日	①山元町社会教育委員の委嘱について
第2回定例会	令和元年5月27日	①山元町立小・中学校給食費補助金交付規則について
第3回定例会	令和元年6月25日	①県費負担職員の行政措置に関し議決を求めることについて
第4回定例会	令和元年7月25日	①令和2年度使用教科用図書採択の承認について ②令和元年度教育功績者表彰候補者について ③埋蔵文化財発掘調査に伴う訴えの提起に関する和解について
第5回定例会	令和元年8月23日	①山元町立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例について ②山元町スポーツ全国大会等出場賞賜金交付要綱の一部を改正する告示について
第6回定例会	令和元年9月25日	①山元町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について

第7回定例会	令和元年10月28日	・報告案件のみ
第8回定例会	令和元年11月25日	①山元町教育委員会に関する点検評価報告書について
第9回定例会	令和元年12月25日	①地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整備に関する規則について ②学校栄養職員特別非常勤講師設置要綱の一部を改正する訓令について
第10回定例会	令和2年1月24日	①学校教育充実事業実施計画について ②尚綱学院大学、仙台大学との連携協定について ③山元町立山元中学校の校章について ④山元町立山元中学校の制服について ⑤震災遺構の施設名称について
第11回定例会	令和2年2月13日	①県費負担職員の人事について ②令和2年度教育関係当初予算案に対する意見聴取について ③山元町児童生徒就学援助実施要項の一部を改正する告示について ④山元町東日本大震災遺構条例施行規則について（新規） ⑤山元町東日本大震災遺構条例の施行に伴う関係規程の整理に関する訓令について ⑥山元町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則について
第12回定例会	令和2年3月27日	①教育振興基本計画の一部見直し（案）について ②令和2年度山元町教育基本方針（案）について ③山元町指定文化財「茶室・葦首城大手門・板倉」等整備基本計画について ④山元町立学校の管理に関する規則の一部を改正する規則について ⑤山元町文化財保護に関する規則の一部を改正する規則について ⑥山元町文化芸術全国大会出場賞賜金交付要綱について ⑦山元町教育相談員の委嘱について ⑧山元町文化財保護委員の委嘱について ⑨山元町スポーツ推進委員の委嘱について ⑩山元町地域学校協働活動コーディネーターの委嘱について

(3) 臨時会の開催について

区 分	期 日	付議事件等（主な審議事項を掲載）
第1回臨時会	令和元年7月9日	①令和2年度使用教科用図書の採択計画書について
第2回臨時会	令和元年8月19日	①新中学校の校名について
第3回臨時会	令和元年3月19日	①一般職員の人事について

(4) 山元町総合教育会議の開催について

期 日	会 場	主 な 議 題 等	出席者
平成31年4月23日	勤労青少年ホーム 講義室	1 山元町小・中学校再編方針（冊子）について 2 学校再編に係る取組の具体について 3 学校再編とこれからの学校教育の充実（構想）について	町長、教育長、教育委員4名
令和元年5月27日	山元町役場第2会議室	1 「教育等の振興に関する施策の大綱」について 2 中学校再編準備の進捗状況について 3 パークゴルフ場事業可能性調査の概要について 4 6月議会定例会補正予算関係について	町長、教育長、教育委員3名
令和元年10月28日	山元町役場第2会議室	1 山元町いじめ防止基本方針の改定について 2 中学校再編準備の進捗状況について 3 学校給食の運営について（調理場の統合、公会計化） 4 体育文化センターの取組について	町長、教育長、教育委員4名

一部改正された地教行法の規程に基づき策定した山元町総合教育会議運営要綱の規程に基づき、町長と教育委員で構成された総合教育会議が5月と10月に開催されました。

また、小・中学校再編に係る協議・調整を行うため、4月にも開催されました。

(5) 教育委員の教育機関訪問

期 日	訪問先	主な内容等
令和元年 8 月 23 日	旧中浜小学校震災遺構 坂元地域交流センター 茶室 体育文化センター 子どもの心のゲハウス	・現場説明・意見交換等
令和元年 9 月 25 日	山下中学校 坂元中学校	山下中学校（給食試食）、坂元中学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和元年 11 月 25 日	坂元小学校 山下第二小学校	坂元小学校（給食試食）、山下第二小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等
令和元年 12 月 25 日	深山山麓少年の森 中央公民館 勤労青少年ホーム 埋蔵文化財整理室	・現場説明・意見交換等
令和 2 年 1 月 24 日	山下小学校 山下第一小学校	山下小学校（給食試食）、山下第一小学校 ・学校経営方針等説明・授業参観 ・意見交換等

2 教育関係経費決算の状況

令和元年度決算額は、教育費 1 1 億 5, 1 0 2 万円、前年度比 8 1. 6 パーセントの増加でした。

主な増加理由としては、小・中学校への空調設備整備工事費、震災遺構中浜小学校保存整備工事等の増加によるものです。

○目的別決算の状況

(単位：千円)

区 分	令和元年度		平成 30 年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
教育総務費	120,960	10.5	86,931	13.7	34,029	39.1
小学校費	230,774	20.0	101,446	16.0	129,328	127.5
中学校費	170,980	14.9	131,601	20.7	39,379	29.9
幼稚園費	10,167	0.9	15,720	2.5	△5,553	△35.3
社会教育費	599,119	52.0	247,176	39.0	351,943	142.4
保健体育費	19,020	1.7	51,097	8.1	△32,077	△62.8
教育費 計	1,151,020	100.0	633,971	100.0	517,049	81.6

○性質別決算の状況

(単位：千円)

区 分	令和元年度		平成30年度		増減額	増減率
	決算額 (千円)	構成比 (%)	決算額 (千円)	構成比 (%)		
人件費	204,065	17.7	180,787	28.5	23,278	12.9
物件費	285,512	24.8	317,640	50.1	△32,128	△10.1
維持補修費	2,820	0.2	7,270	1.1	△4,450	△61.2
扶助費	31,343	2.7	28,961	4.6	2,382	8.2
補助費等	26,072	2.3	34,170	5.4	△8,098	△23.7
普通建設事業費	596,204	51.8	61,462	9.7	534,742	870.0
積立金	4,644	0.4	3,321	0.5	1,323	39.8
貸付金	360	0.1	360	0.1	0	0
教育費 計	1,151,020	100.0	633,971	100.0	517,049	81.6

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校児童生徒数等について(5月1日現在)

令和元年度児童生徒数は、694人で前年度より38人の減少でした。

○小学校

	令和元年度		平成30年度		増 減	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
1年生	5	73	4	71	1	2
2年生	4	70	4	63	0	7
3年生	4	63	4	68	0	△5
4年生	4	68	4	67	0	1
5年生	4	69	4	85	0	△16
6年生	4	85	4	94	0	△9
特別支援	7	12	7	12	0	0
計	32	440	31	460	1	△20

○中学校

	令和元年度		平成30年度		増 減	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年生	4	95	3	69	1	26
2年生	3	69	3	86	0	△17
3年生	3	84	4	112	△1	△28
特別支援	3	6	3	5	0	1
計	13	254	13	272	0	△18

(2) 就学援助事業

経済的理由によって就学困難な生徒の保護者や震災により被災した児童生徒の保護者に対し、学校用品費等の援助を行うとともに、心身に障害のある生徒の保護者に対する援助を実施し、就学の奨励を図ったものです。

○要保護・準要保護就学援助事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	43	481,920	35	787,850
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	8 (4)	406,640 (204,240)	7 (2)	407,000 (120,000)
通学用品費	33	71,053	21	45,000
校外活動費(宿泊有り)	7	25,550	14	77,500
校外活動費(宿泊無し)	30	36,778	0	0
修学旅行費	5	88,955	13	732,378
給食費	43	1,909,772	35	1,768,536
医療券	2	10,390	1	5,410
計	43	3,031,058	35	3,823,674

○特別支援教育就学奨励事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	6	34,560	1	11,255
新入学学用品	2	50,600	0	0
校外活動等参加費	5	4,675	0	0
修学旅行費	1	10,004	0	0
給食費	4	90,628	0	0
計	6	190,467	1	11,255

○被災児童就学奨励事業

(単位：円)

区分 対象数・金額	小学校		中学校	
	援助対象人数	援助額	援助対象人数	援助額
学用品費	121	1,380,480	78	1,746,395
新入学学用品費 (うち前倒し支給)	9 (5)	457,700 (255,300)	24 (9)	1,286,200 (540,000)
通学用品費	105	235,122	54	121,500
修学旅行費	34	691,169	29	1,725,734
校外活動費(宿泊有り)	26	90,439	21	124,850

校外活動費(宿泊無し)	84	71,926	0	0
給食費	121	5,373,272	78	3,957,544
医療費	12	64,703	2	6,303
計	121	8,364,811	78	8,968,526

(3) 学校給食費補助事業

小・中学校に通学する2子以降の児童生徒の保護者に対し、学校給食費を補助することにより、多子世帯の経済的負担を軽減し子育て支援を推進するものです。

○学校給食費補助事業

(単位:円)

区 分	小学校	中学校	計
対 象 者	115	10	125
補助金額	5,158,103	519,970	5,678,073

(4) 中学校の再編準備について

平成30年12月に策定した「山元町小・中学校再編方針」に基づき、令和3年4月の中学校再編に向け、山元町立中学校再編準備委員会を設置し、必要な事項の調査及び検討を行いました。

○再編準備委員会の概要

会 議	開催日	主な協議事項
全体会	平成31年4月25日	・組織体制、役割分担、今後のスケジュール等
代表者会	令和元年5月21日 令和元年6月18日 令和元年8月6日 令和元年9月24日 令和元年11月15日 令和2年1月17日	・検討部会で協議した内容について、準備委員会としての案を決定する。 ・新中学校の名称を「山元中学校」と選定
校章・制服制定検討部会	令和元年5月28日 令和元年7月10日 令和元年8月27日 令和元年9月20日 令和元年12月12日 令和2年1月29日	・山元中学校の校章を選定 ・山元中学校の制服を選定
制服選定プロポーザル	令和元年11月5日 令和元年12月19日	・制服選定プレゼンテーション ・制服選定プロポーザル
校歌制定・スクールバス導入検討部会	令和元年5月30日 令和元年6月27日 令和元年7月17日 令和元年9月10日 令和元年10月10日 令和2年1月15日	・校歌の作詞作曲を「サーカス」の叶ありさ氏に依頼 ・スクールバスの運行台数、運行ルート、運行形態案を策定

教育課程編成検討 部会	令和元年 6 月 24 日 令和元年 9 月 24 日 令和元年 11 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、重点事項の検討 ・教育課程編成（教育計画）の検討 ・各教科等年間指導計画の検討 ・部活動（設置部活動、方針）の検討 ・交流活動の検討
規則・規約検討部 会	検討部会 4 全体会 令和元年 7 月 12 日 同窓会関係 令和元年 8 月 29 日 令和元年 10 月 24 日 P T A 関係 令和元年 9 月 6 日 令和元年 9 月 31 日 令和元年 12 月 5 日 学校事務関係 令和元年 11 月 29 日 令和 2 年 2 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会の規約、会費検討 ・P T A の規約、会費の検討 ・山元中学校の学校徴収金の項目について ・現中学校の備品整理スケジュールについて

(5) 学校教育充実事業（みのりプロジェクト）

学校教育に係る現状の課題を踏まえ、今後の取り組みについての計画を策定し、児童生徒が将来、夢や志を持って社会で生き抜いていけるよう、教育活動の充実を図るため、講師に宮城教育大学学長特別補佐特任教授の野澤令照様を迎え推進会議を開催しました。

期 日	会 場	主な協議内容等	参加者
令和元年 6 月 3 日	山下地域交 流センター 会議室 7	<ol style="list-style-type: none"> 1 「3つの約束」の充実・浸透策について 2 家庭学習の習慣づくりについて 3 認め励ますことの大切さ・非認知能力を育むことについて 4 運動に取り組む姿勢について 5 メディアの悪影響に対する自律的な行動の意識化について 	講師、小・中 学校長 6 名、 教育長、教育 総務課長等
令和元年 12 月 19 日	山元町役場 第 2 会議室	「コミュニティスクール」についての 研修会 講師：宮城教育大学 学長特別補佐特任教授 野澤 令照 様	講師、小・中 学校長 6 名、 教育長、教育 総務課長等
令和 2 年 2 月 4 日	山元町役場 第 2 会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1 山元町におけるコミュニティスクールの在り方について 2 山元町教育振興基本計画の改訂案について 	講師、小・中 学校長 6 名、 教育長、教育 総務課長等

(6) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携その他いじめの防止等のための対策を推進するために必要な事項に関し、連絡及び協議を行うため、協議会を開催しました。

なお、令和元年度における山元町のいじめの認知件数等は以下のとおりです。

○いじめ問題対策連絡協議会開催の概要

期 日	会 場	主 な 議 題 等
令和元年10月21日	山下地域交流センター 会議室6	1 平成30・令和元年度いじめ認知状況について 2 いじめ防止対策について

○山元町のいじめの認知件数

(令和2年3月31日現在)

学 校 名	学 年						計	状 況	
	1	2	3	4	5	6		継続指導中	解 消
坂元小学校				1	1	1	3		3
山下小学校							0		
山下第一小学校							0		
山下第二小学校							0		
坂元中学校	1						1		1
山下中学校		3					3		3
計	1	3	0	1	1	1	7		7

(7) 子どもの心のケアハウス運営事業について

山元町立小中学校における不登校等の児童生徒及び保護者に対し、教育相談、生活相談、学習支援等を通して、不登校児童生徒の自立及び学校生活への自発的な復帰を促すことを目的とし、専任の担当職員を採用し令和元年度からケアハウスの運営を行いました。

○心のケアハウスへの通所者数等

(令和2年3月現在)

通所者数	7人	通所者内訳 小学生：0人 中学1年生：男子1人、女子1人 中学2年生：男子0人、女子1人 中学3年生：男子1人、女子3人
相談件数	80件	
開所日数	218日	

(8) 学校防災に係る教育講演会の開催について

学校における防災意識の向上のため、小中学校の教員を対象とした、研修会を、8月5日、元山元町立中浜小学校 校長 井上剛様から、「震災を乗り越えて」～伝えること～と題し、東日本大震災での経験に基づいた学校防災についての講演をいただき、教職員等約100人が参加しました。

(9) 学力調査実施事業

町独自で学力調査を行うことにより、学力向上を目的とした詳細な指導計画の策定や、日々の授業内容の改善を目的に実施しました。

○実施状況

項目	小学校	中学校
実施回数	年2回（1学期、3学期）	年2回（1学期、3学期）
実施学年	1年生～6年生 （1年生は3学期のみ実施）	1年生～3年生 （3年生は1学期のみ実施）
実施科目	国語、算数	国語、数学

(10) 学校働き方改革環境整備事業

教職員の働き方改革に向けた取組の一環として、出退勤システム及び留守番電話を導入し、「勤務時間」を意識した働き方を進め、教職員の業務改善に取り組みました。

(11) 主な施設整備の状況について

① 小・中学校空調設備整備事業

山下第二小学校以外の学校には冷房設備がなく、夏季において集中して学業に臨むことが困難な状況であったため、臨時特例交付金を活用し施設面でのよりよい教育環境を整備するため、普通教室、図書室等にエアコン整備を行いました。

○整備状況

学校名	設置台数	設置場所
坂元小学校	11台	普通教室、PC教室、図書室、校長室
山下小学校	14台	普通教室、PC教室、校長室
山下第一小学校	10台	普通教室、PC教室、図書室、校長室
坂元中学校	4台	普通教室、校長室
山下中学校	10台	普通教室、図書室、校長室

※保健室、職員室には全学校設置済

② 学校施設長寿命化計画策定事業

施設の維持管理に係るトータルコストの削減及び予算の平準化を図るため、学校施設の老朽化等の現状を把握し、施設に求められる機能を確保するための中長期的な施設整備の具体的な方針・計画を策定しました。

(12) 学校給食の概要について

学校給食は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のために、バランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進、体位の向上を図ることに加え、正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に着け、好ましい人間関係を育てるなど多様で豊かな教育的なねらいを持っています。

一方、不規則な食事や偏った食事内容、さらに家庭環境の変化など見過ごすことのできない問題等もみられることから様々な課題等にも対応してきました。

① 給食回数

小学校 157回～165回 中学校 161回～163回

※学校行事等の持ち方によって学校ごとに回数が異なります。

② 給食の形態（完全給食）

米飯給食 週4回（月、火、木、金）

パン給食（麺給食併用） 週1回（水）

③ 給食運営の負担区分

町費負担 給食施設の維持管理経費、人件費、消耗品費等

保護者負担 小学校 278円（児童1人 1食あたりの食材費）

中学校 319円（生徒1人 1食あたりの食材費）

給食の単価については、平成26年2月の学校給食運営審議会で議論された結果、消費税率引き上げに伴う給食費の改定が行われ、平成26年度より小学校は8円、中学校は9円増額しました。令和元年度は据え置きです。

④ 給食調理・給食運搬業務委託事業

・給食調理業務委託事業の委託先は、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社仙台営業所で契約期間は、平成28年4月1日から令和元年7月31日、その後、令和元年8月1日から令和3年3月31日で、坂元中学校給食室で調理業務を実施しています。

・給食運搬業務委託事業の委託先は、社会福祉法人山元町社会福祉協議会で契約期間は、平成28年4月1日から平成31年3月31日、その後、平成31年4月1日から令和3年3月31日で、コンテナ車による配送を行っています。配送先は、坂元中学校から坂元小学校へ、及び山下中学校から山下第一小学校及び山下第二小学校です。

⑤ 給食調理等職員数

調理場	栄養士	栄養教諭	臨時栄養士	給食従事員 (含む臨時職員)	計	備考
坂元中学校	1名		1名	業務委託 5名	7名	
山下中学校		1名	1名	8名	10名	

⑥ 特色ある事業

保健福祉課と産業振興課との共同で郷土料理（はらこめしづくり）体験事業を小学校5年生を対象に全小学校で実施しています。

山下第一小学校	令和元年10月24日 14名	山下第二小学校	令和元年10月30日 16名
山下小学校	令和元年10月31日 29名	坂元小学校	令和元年11月1日 13名

・実施に当たっては、宮城県漁業協同組合山元支部と山元町食生活改善推進員協議会から食材の提供や調理等の指導の協力をいただいています。

⑦ 食材の放射性物質検査について

食品放射能測定システムによるセシウム134・137の検査を実施

平成24年4月25日より週2回、2種類の検査を実施していましたが、令和元年10月からは給食献立1食分（主食、牛乳を除く）の検査に変更しました。

令和元年度は、延べ74日検査を実施し、検査結果は、いずれも厚生労働省が示す放射性セシウムの新基準値を下回るか不検出でした。

⑧ 山元町立学校給食運営審議会を開催

期 日	会 場	主 な 議 題 等	備 考
令和2年2月25日	中央公民館 会議室	1 令和元年度学校給食運営について 2 令和2年度学校給食運営について	

4 生涯学習の推進

平成29年3月に策定した、山元町教育基本計画アクションプランに基づき、社会教育の活動推進、地域文化の保護と活用、並びに社会体育と生涯スポーツの振興を重点施策とし、併せて地域コミュニティの再構築を目的とした協働教育を推進するなど、住民主体による家庭、地域、学校等が一体となった協働によるまちづくりに取り組みました。

中でも、より一層の協働教育の連携強化を図るため、協働教育コーディネーターを引き続き配置し、事業を推進しました。

また、住民や各種社会教育団体の生涯学習意欲の高まりに応えるため、生涯学習施設・社会体育施設の維持管理・利用調整等を行い、活動の支援を行いました。

(1) 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

① 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供しました。

ア 子育てサポーターの養成

No.	事業名	期間	回数	参加者数(人)	備考
1	子育てサポーター・リーダーネットワーク研修会	7/11	1	6人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
2	子育てサポーターリーダー養成講座	9/4 ～12/4	4	延べ 23人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
3	子育てサポーター養成講座	5/28～ 6/18	4	延べ 28人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
4	宮城県家庭教育支援チーム員研修会	5/8～ 2/5	3	延べ 8人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
5	家庭教育支援チーム「つばめ」スタッフ研修会	8/17	1	18人	主催事業「つくってあそぼう少年の森」を通して 講師：「プレーワーカーズ」
6	市町村家庭教育支援関係職員研修会	4/25	1	2人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)
7	子育て・家庭教育支援フォーラム	11/1	1	8人	主催：宮城県教育委員会 (みやぎらしい家庭教育基盤形成事業)

イ 家庭教育支援チームの活動支援

No.	情報紙名	会員	活動等
1	家庭教育支援チーム「つばめ」	31人	毎月定例会（スタッフ会議、情報誌発行（年6回 各回700部）、家庭教育学級等支援

ウ 子育てサークルの活動支援

こどもセンターを主な活動の場とし、活動及び運営の補助を行いました。

No.	団体名	内容	活動日等
1	育児サークル「なかよし会」	親子共同保育	毎週木曜日 13家族

② 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり

ア 地域学校協働本部の設置

地域学校協働本部の設置要綱及び山元町地域学校協働活動コーディネーター等設置要綱を平成30年3月に告示し、平成30年6月に3名のコーディネーターを委嘱しました。平成30年度は本部の組織化と運営等について打合せ等を行いました。 ※要綱、平成30年4月1日施行

イ 地域人材を活用した学校教育活動の支援

小中学校の要望に応じて、協働教育コーディネーターを通じ、スポーツ推進委員や指導者、安全見守りボランティアの情報提供及び連絡調整を行い、協働教育の充実を図りました。

ウ 学校支援教育

No.	学校名	学年	時期	内容	備考
1	山下小	1・2	4/12	交通安全教室安全見守り	ボランティア5人 統括コーディネーター1人 地域コーディネーター1人 生涯学習課1人
		5・6	4/15	交通安全教室安全見守り	ボランティア3人 統括コーディネーター1人 地域コーディネーター1人 生涯学習課2人
		全	6/12	スポーツテスト計測補助	ボランティア5人
		3	6/25	少年の森校外学習見守り	ボランティア5人 生涯学習課1人
		5	6/25	ミシン活動補助	ボランティア5人 統括コーディネーター1人

		5	9/13	親子大正琴演奏体験	ボランティア7人 生涯学習課1人
		1	9/23	学習発表会小物づくり	ボランティア3人 統括コーディネーター1人
		全	9/27	縦割り山登り安全見守り	ボランティア14人 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		3	10/17	リンゴ農家見学見守り	ボランティア2人 統括コーディネーター1人
		全	11/13	持久走大会試走安全見守り	ボランティア3人 統括コーディネーター1人
		全	11/21	持久走大会安全見守り	ボランティア10人 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		6	12/6	ミシン活動補助	ボランティア5人 生涯学習課2人
		6	2/14	復興から学ぶ	講師2人 生涯学習課1人
		1	2/26	昔遊び交流	ボランティア6人 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		5	通年	金管バンド指導	講師1人
		全	10月～	見守り活動	ボランティア27人
		全	通年	読み聞かせボランティア	6人(年20回)
2	山一小	5・6	9月	合唱指導	ボランティア延べ3人
		全	通年	読み聞かせボランティア	6人(年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア23人
3	山二小	6	6/24	民話を聞く会	講師1人
		5	12/5 12/11 12/18	ミシン活動補助	ボランティア延べ14人 統括コーディネーター1人 生涯学習課2人
		全	通年	読み聞かせボランティア	8人(年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア67名

4	坂元小	全	6/18	スポーツテスト計測補助	ボランティア4人
		5	2/10 2/14 2/20	ミシン活動補助	ボランティア延べ9人 統括コーディネーター1人 地域コーディネーター2人 生涯学習課2人
		3	6月～	りんごの学習指導	指導者1人 (年5回)
		4	6月～	神楽の学習	指導者6人 (年12回)
		5	6月～	いちごの学習指導	指導者1人 (年4回)
		全	通年	読み聞かせボランティア	7人(年20回)
		全	通年	見守り活動	ボランティア40人
5	山下中	2	5/8 5/9 5/10	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協力事業所50か所 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
		1	9/3 9/10 9/11	ミシン活動補助	ボランティア延べ11人 統括コーディネーター1人 生涯学習課2人
		1	11/8	「命の教室」活動補助	ボランティア9人 生涯学習課1人
		3	11/13	防災学習	講師1人
		1	1/27 1/30 1/31 2/7 2/10 2/20	琴演奏補助	ボランティア延べ6人 生涯学習課1人
		1	2/25 3/3	和装着付け体験	ボランティア延べ20人 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人
6	坂元中	2	9/4 9/5 9/6	職場体験活動 (受入事業所調整等)	協力事業所50か所 統括コーディネーター1人 生涯学習課1人

エ 放課後子ども教室活動の充実

No.	事業名	期間	回数	登録者数	備考
1	はまっこキッズ (坂元小対象)	5/10 ～ 2/14	27	31人 (延べ583人)	会場：坂元小学校・坂元 おもだか館 スタッフ数10人 (延べ115人)
2	みやまっこクラブ (山下小・山一小・ 山二小対象)	5/13 ～ 2/17	21	15人 (延べ223人)	会場：山下第一小学校 スタッフ数9人 (延べ125人)

③ 子どもたちの体験活動の推進

ア 地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）
の実施

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ジュニア・リーダー 初級研修会（コロナの影響 により中止） (小学6～高2年生対象)	3/21 3/22	—	—	会場：宮城県蔵王 自然の家
2	学校開放 「やまもと楽校」	8/3	1	延べ27人	会場：ふるさとお もだか館 協力：町内ボラン ティア講師 2人
3	青年活動活性化事業 「勤労ホームロビー ミニコンサート」	1/25	1	30人	会場：勤労青少年 ホームロビー

イ 社会教育関係団体等育成のための補助金

No.	団体名称	金額（円）	備考
1	なかよし会	13,000	13家族15人
2	山元町青少年育成推進協議会	70,000	12人
3	山元町小中学校連合父母教師会	20,000	
4	山元ボランティアサークル虹	21,000	32名（中13、高19）
5	山元町文化協会	266,000	329名（33団体）
6	山元町老人クラブ連合会	309,000	160人
7	各単位老人クラブ（4団体）	188,000	27,000円＋会員数×500円

ウ 社会教育関係団体等育成のための事業参加負担金の助成

No.	団体名称	金額（円）	備考
1	ジュニア・リーダー上級研修会	24,000	参加者6人

エ 姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会参加者に対する助成

No.	事業名	金額(円)	備考
1	第23回姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会	60,000	@10,000円×6人 会場：山元町

④ 家庭教育の充実

ア 家庭教育学級・幼児学級の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	家庭教育・幼児学級 (就学予定の幼児と保護者対象)	6/12 ～2/7	12	延べ213家庭 (延べ428人)	協力 ・4小学校各3回 ・2回目に宮城県版親の学びのプログラム「親のみちしるべ」ワークショップを町家庭教育支援チームが講師となって開催した

イ 家庭教育講座の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	ちびっこひろば「きらり☆」 (乳幼児・幼児と保護者対象)	5/23 ～ 1/23	7	延べ87家庭 238人	町内社会教育施設等で開催

ウ 親子ふれあい事業の開催

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	親子演劇会 (やまもと幼稚園)	7/11	1	150人	鑑賞者：園児、保護者、職員

(2) 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

① 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

ア 町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報を提供する。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	第43回町民文化祭	11/2 ～3	1	2,500人	主催：山元町文化協会
2	第23回文化推進事業 「伝統・伝承芸能まつり」	9/8	1	280人	主催：山元町文化協会

イ 国や県の事業（巡回小劇場等）を積極的に活用しました。

No.	事業名	期間	回数	参加者数	備考
1	宮城県巡回小劇場小公演 「八郎」「にんぎょう祭り ばやし」 (坂元小)	9/24	1	坂元小 106人	主催：県教育委員会 共催：町教育委員会

② 文化財の保護と活用

ア 無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報を提供しました。

No.	団体名	備考	
1	・坂元神楽保存会 ・當護稻荷大神楽保存会 ・坂元おけさ保存会	第43回山元町町民文化祭 (つばめの杜ひだまりホール：11月3日)	伝統芸能を広く 発表することに 努めた

イ 文化財保護委員5名を委嘱し、町文化財等に関する答申を行いました。

- ・文化財保護委員会 開催回数 4回

ウ 指定文化財茶室等整備・活用検討委員会

検討委員8名を委嘱し、町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉等整備基本計画に係る検討を実施しました。

- ・指定文化財茶室等整備・活用検討委員会の開催 5回

エ 埋蔵文化財の保護（復興交付金関係）

東日本大震災に伴う復興事業に関連して実施された発掘調査において出土した金属製品や土器をはじめとする多数の遺物の保管先である収蔵庫建設の建設工事を実施しました。

- ・埋蔵文化財収蔵庫建設工事

○請負者 (株)阿部工務店

○期間 令和元年8月31日から令和2年3月25日まで※

○契約額 101,431,000円

※施工不良に伴う手直し工事の申出があり、年度内完了の見通しが立たなかったため、明許繰越措置としました。

- ・埋蔵文化財収蔵庫建設工事監理業務

○請負者 (株)群建築設計事務所

○期間 令和元年10月5日から令和2年3月25日まで※

○契約額 2,089,000円

※施工不良に伴う手直し工事の申出があり、年度内完了の見通しが立たなかったため、明許繰越措置としました。

オ 埋蔵文化財の整理業務実施遺跡一覧

No.	遺跡名	行政区	調査原因	業務内容	備考
1	合戦原遺跡	合戦原区	防災集団移転等	出土品の整理	復興交付金事業

カ 埋蔵文化財の現地発掘調査実施箇所一覧

No.	遺跡名	行政区	調査原因	調査内容	調査時期	備考
1	作田山館跡	山下区	山下地区地域 防災がけ崩れ 対策工事	本発掘調査	4～6月	町事業
2	大平館跡	大平区	個人住宅	確認調査	6月	民間事業
3	山寺館跡	山寺区	町道拡張	確認調査	7月	町事業
4	戸花山遺跡	町区	町道新浜諏訪 原線改良工事	確認調査・ 本発掘調査	8～12月	町事業
5	小平館跡	小平区	立木伐採	確認調査	12月	民間事業
6	石垣遺跡	山寺区	個人住宅	確認調査	3月	民間事業

※1・4については、建設課予算にて対応

キ 町指定文化財

「茶室」・「葦首城大手門」・「板倉」等を中心とした町指定文化財及びその周辺の整備基本計画の策定を業務委託により実施しました。

・山元町指定文化財茶室等整備基本計画策定業務

- 請負者 国際航業(株) 仙台支店
- 期 間 令和元年8月26日から令和2年3月25日まで
- 契約額 7,370,000円

ク 有形文化財（絵図）の修復

下郷区の個人宅で発見され、町に寄贈された「坂本城御家中図」の修復を業務委託により実施しました。

・坂本城御家中図修復業務

- 請負者 (株)修護
- 期 間 令和元年7月1日から令和2年3月16日まで
- 契約額 479,940円

ケ 文化財包蔵地の環境整備

町内の遺跡に設置している標識について、経年劣化により更新が必要な標柱の建て替えや、町指定文化財茶室・大條氏御廟・中島館跡の草刈り等を実施し、環境整備に努めました。

- ・文化財標柱の更新等

No.	場 所	内 容	備 考
1	町指定文化財茶室・大手門・板倉	文化財説明板設置	1基

コ 文化財行政団体への参画及び負担

No.	団体名称	金額（円）
1	宮城県史跡整備市町村協議会	4,500

サ 団体への補助金の交付

No.	団体名称	金額（円）
1	坂元神楽保存会	10,000
2	坂元おけさ保存会	10,000

③ 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実

ア 町民グラウンド拡張・改修事業

町民のスポーツ活動の拠点として一層のスポーツの普及振興を図るため、定期利用団体と意見交換会を行いながら、機能拡張と利便性向上を目的とした実施設計を平成31年度に終え、令和元年度は工事費に充当するためのスポーツ振興くじ助成金の申請を行いました。令和2年度には、拡張・改修工事を行う予定としています。

イ 事業実施状況

No.	事業名	期 間	回数	参加者数	備 考
1	トレーニング器具 取扱い講習会	4/26 ～ 12/21	6	29人	会 場：体育文化センター 指導者：スポーツ推進委員
2	宮城ヘルシー2019 ふるさとスポーツ祭 仙台管内大会	8/25	1	39人	会場：県総合運動公園 主催：県・県教育委員会ほか

(※) 山元町からの出場は、グラウンドゴルフ10人、キンボール10人、家庭バレーボール2チーム(21人)でした。

ウ スポーツを通し、町民同士の繋がりを甦らせることを目的に町民綱引き大会を開催しました。

・町民綱引き大会（令和元年 11 月 23 日開催）

部 門	参加チーム数	参加者数
行政区の部	8チーム	103人
企業の部	8チーム	104人
ジュニアの部	3チーム	41人
大会関係者		22人
スタッフ		16人
保護者等		30人
報道等		3人
合 計	19チーム	319人

エ スポーツ競技者及び団体等への支援体制の整備

スポーツ団体への助成を行い、広くスポーツの推進を図るとともに、全国大会等へ出場する選手（団体・個人）に対し賞賜金を交付し、スポーツの振興を推進しました。

・補助金の交付状況等

No.	団体名称等	金額（円）	備 考
1	山元町体育協会・山元町スポーツ少年団（山元町スポーツ団体補助金）	1,177,791	体協団体 9 団体 スポ少団体 5 団体
2	山元町スポーツ少年団	300,000	オオツボスポーツ寄付分
3	各行政区（地域スポーツ・レクリエーション事業補助金）	110,000	@10,000×11 行政区

・賞賜金の交付状況

No.	区分	件数	金額（円）	備 考
個人	全国大会出場	18 件	180,000	ソフトボール 1 件（1 人） 野球 3 件（3 人） 空手道 4 件（3 人） 卓球 2 件（1 人） バウンドテニス 1 件（1 人） チアダンス 3 件（3 人） バスケットボール 3 件（3 人） 陸上 1 件（1 人）
	世界大会出場	1 件	50,000	フロアボール 1 件（1 人）
団体	全国大会出場	4 件	690,000	ソフトボール 4 件（3 団体）

オ パークゴルフ場事業可能性調査

交流人口 100 万人を目指し、震災からの復興プロジェクトである交流拠点と賑わい創出の場、健康増進の場として整備が検討されているパークゴルフ場について、平成 31 年度に実施した市場調査と採算性調査からなる事業可能性調査の追加調査分として、令和元年度は候補地を複数選定し、全体事業費の試算を行いました。

④ 施設の利用状況

ア 社会教育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数	前年度利用者数
1	中央公民館	18,542 人	28,051 人
2	勤労青少年ホーム	7,273 人	7,699 人
3	山下地域交流センター	70,586 人	78,822 人
4	坂元地域交流センター(坂元公民館)	20,958 人	25,619 人
5	深山山麓少年の森	16,202 人	19,288 人
6	歴史民俗資料館	1,751 人	2,415 人
7	ふるさと伝承館	4,424 人	3,225 人

イ 社会体育施設の利用状況

No.	施設名	利用者数	前年度利用者数
1	体育文化センター (武道館を含む)	14,525 人	16,100 人
2	町民グラウンド	3,872 人	904 人 (9 月から供用開始)
3	山寺深山グラウンド	1,931 人	1,829 人
4	真庭グラウンド	1,468 人	1,345 人

(3) 防災教育を通じた命を守る意識の高揚

① 震災遺構の活用

ア 震災遺構としての整備・保存【旧中浜小学校震災遺構保存整備事業】

東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を震災遺構として保存・活用することを目的に、平成 31 年度の実施設業務に続き、整備工事等を行いました。

関連工事

旧中浜小学校震災遺構保存整備工事	
期 間	令和元年 6 月 15 日～令和 2 年 2 月 28 日
内 容	校舎改修、管理棟新築、駐車場整備他

施工業者	仙建工業株式会社
旧中浜小学校メモリアル広場整備工事	
期 間	令和元年 8 月 31 日～令和 2 年 3 月 25 日
内 容	多目的広場整備、園路整備他
施工業者	野村建設株式会社

旧中浜小学校モニュメント整備工事	
期 間	令和元年 8 月 23 日～令和 2 年 2 月 28 日
内 容	日時計モニュメント整備
施工業者	仙建工業株式会社

旧中浜小学校黒松移植補償工事	
期 間	令和元年 5 月 8 日～令和 2 年 3 月 20 日
内 容	黒松根廻し、移植、生育確認等
施工業者	茶山林泉株式会社

関連業務委託

旧中浜小学校震災遺構展示制作業務委託	
期 間	令和元年 7 月 23 日～令和 2 年 4 月 30 日
内 容	映像制作、模型制作、展示説明パネル制作他
施工業者	一般社団法人 S S D

旧中浜小学校震災遺構保存整備工事監理業務委託	
期 間	令和元年 6 月 28 日～令和 2 年 3 月 10 日
内 容	校舎改修工事・管理棟新築工事における施工監理
施工業者	株式会社国際開発コンサルタント 仙台支店

旧中浜小学校モニュメント整備工事監理業務委託	
期 間	令和元年 8 月 23 日～令和 2 年 3 月 10 日
内 容	日時計モニュメント整備工事における施工監理
施工業者	株式会社国際開発コンサルタント 仙台支店

山元町教育委員会に関する点検評価報告書（評価表）

山元町教育振興基本計画（アクションプラン）

（令和元年度）

【山元町教育委員会】

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向 1 学ぶ力と自立する力の育成

評価(達成度) : A (90%~) B (70%~) C (40%~) D (40%未満) N (評価不能)

(1) 「志教育」の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
「志教育」 の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	「志教育」全体計画・年間指導計画の充実と志担当教諭を中心とした組織的・計画的な推進	B	・志教育の視点を学習や学校行事に位置付け、実践した。昨年度の課題だった「はたす」の観点を特に意識してきたが、もう少し改善の余地がある。	坂元小
			A	・全体計画及び年間指導計画を基に、学校行事や特別活動に志教育の目標（かかわる・はたす・もとめる）を位置付け、実践してきた。	山下小
			A	・外部講師関連の学習では、志教育の3観点を行事黒板に示し、指導者は観点を意識した取組を行った。	山一小
			A	・全体計画・年間指導計画を基に特別活動を中心とした活動を深め、志シートを活用しながら、活動を充実させている。	山二小
			A	・志教育の「かかわる」「もとめる」「はたす」の3つの視点を全体計画及び各教科の年間計画に入れ込むとともに、志シートを活用して指導を行った。	坂元中
			A	・各学年での取組を、自己の将来や生き方と関連づけて生徒の主体的な活動として実施し、総合発表会において全生徒がプレゼンを行ない表現力の伸長を図ることができた。	山下中
		「みやぎの先人集」等資料の効果的な活用	A	・先人集第一集や第二集の価値項目から児童の実態に応じた資料を活用した。特に高学年は、先人の生き方を通して考えさせるのに有効だった。	坂元小
			B	・「みやぎの先人集」は主として道徳の時間で活用し、先人の果たした役割に触れることができた。 ・地元山元町の人材の発掘を進める必要がある。	山下小
			B	道徳の時間に、徳目に関連する事例を取り上げて資料として扱った。	山一小
			A	・「みやぎの先人集」を活用しながら、学年段階に応じて昔の人の志や努力に学び、自分達の生活に生かせるように活用している。	山二小
			C	・効果的な活用を行うことができなかったため、その活用を検討していきたい。	坂元中
			B	・総合的な学習の時間や特別の教科道徳の中で、より効果的な活用法を計画していきたい。	山下中

「志教育」の推進	「志教育」を通して、児童生徒が人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い、自らの在り方や生き方について主体的に探求していけるよう、学校の取組について一層の推進・充実を図る。	家庭・地域との連携、交流活動や体験活動等の推進	A	・「神楽」や「おけさ」等の体験活動を通して、地域の歴史や文化を継承してきた人々の思いや願いを学び、交流活動につなげることができた。	坂元小
			A	・宿泊学習及び校外学習での見学・体験活動、学校支援ボランティアとの関わりを通して、社会性を育むことができた。	山下小
			A	・栽培活動、読み聞かせ、児童お祭り集会等、様々な関わりを通して、自己有用感の育成に資することができた。	山一小
			A	・地域との連携・家庭との連携を教育計画に明確に位置付け、多くの取組を通じて体験活動の充実を図っている。	山二小
			A	・地域での職場体験、敬老会とのグラウンド・ゴルフを通じての交流、地域の方を招いての山元町の歴史講話、話し方教室の開催などを行った。	坂元中
			A	・ボランティア活動等に参加することで、満足感や自己肯定感を味わわせることができた。	山下中
		【その他の評価指標】「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の合計		「将来の夢や目標を持っている」 小：90.0%、中：75.5% 「人の役に立つ人間になりたいと思う」小：97.1%、中：95.7%	

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的事項①**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、校内研修や少人数指導等指導体制の充実を図る。	校内研修の充実に向けた研究主題の設定と研究主任を中心とした組織的・計画的な推進	A	・昨年度の課題を引き継ぎ実践を重ねた。また、校内研究を通して、先輩は後輩を育て、後輩は先輩から学ぼうとする研修風土を培うことができた。	坂元小
			A	・「自ら考え、進んで伝え合う児童の育成」を研究主題とし、全員1回の授業研究と協働による授業づくり（事後検証）を計画的に実施した。	山下小
			A	・町内4小学校が連携して算数の指導方法の研究に取り組んだ意味は大きい。各学校の取組により、指導方法の質の向上が図れた。	山一小
			A	・「自分の考えをもち、主体的に表現する児童の育成」を主題として、研究主任を中心に全職員が研究授業を計画的に実施し、模擬授業の事前検討で良く吟味したことで、授業づくりが深まった。	山二小

教科指導力の向上	児童生徒に「分かる喜び」が実感できる授業を展開するため、校内研修や少人数指導等指導体制の充実を図る。	校内研修の充実に向けた研究主題の設定と研究主任を中心とした組織的・計画的な推進	A	・各教員が年1回研究授業を行うとともに、授業実践を毎月の職員会議で発表した。	坂元中
			A	・研究主任を中心に、校内研究主題を意識した授業づくりを各教科毎に進めることができた。	山下中
	教員を対象に、指導力向上に向けた研修会等を開催する。	T Tによる指導、少人数指導等効果的な指導体制の充実	A	・T・Tによる指導や情報交換により、児童の実態把握と個々の課題解決に向けたきめ細やかな指導を行うことができた。	坂元小
			A	・加配を有効活用して、算数科においてT T指導あるいは少人数指導を行い、児童の実態に応じた効果的な指導を実施した。	山下小
			A	・校内体制を整え、理解の遅い子への個別の支援に取り組んだ。児童はできるようになった喜びを感じていた。	山一小
			A	・加配を有効活用して、3学年以上の算数においては基本的に少人数指導としてT Tや補足的・発展的な学習を行い、児童の実態に合わせた効果的な指導を実施した。	山二小
			A	・数学と英語でT T指導を行うとともに、同じく数学、英語について、「まなびの森」の協力を受けている。	坂元中
			A	・3年数学・英語において、習熟度別の少人数指導を実施し、個に応じた指導ができた。	山下中
		指導力向上研修会等の開催（外部講師等による研修）	A	・夏季休業中に町内の全教員を対象とし実施したため、92人も教職員等に参加頂いた。 ・指導力向上に関連する議題と外部講師の選定が課題である。	教育総務課
	学力向上に向けた基本的生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	改訂版の検討・作成	B	・「ゲーム・スマホの約束」については、メディア全般の利用を調査し、改善が必要な内容に改定していく必要がある。
A				・指導実践を振り返ることで、より活用しやすいものとなるよう改訂に向け学校内で話し合った。	山下小
A				・教育充実事業の推進によって、取り上げるべき重点事項が明確であった。R1年度は、その効果について検証を重ねた。	山一小
A				・下敷きの他に、自宅掲示用のシートなどにして配付し、啓発している。下敷きが経年劣化するので、対応の工夫を検討し、指導している。	山二小

<p>学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立</p>	<p>町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】</p>	<p>改訂版の検討・作成</p>	B	・「3つの約束」についての検討はしていないが、その指導方法について検討した。	坂元中	
			B	・町内「3つの約束」プロジェクトチームにより内容の再検討を行った。	山下中	
			B	・各学校で児童生徒の日常化へ指導に努めると共に、下敷き及びクリアファイルの数量確保に向けて増刷への対応を進めた。	教育総務課	
		<p>児童生徒に対する適切かつ工夫した指導</p>		A	・教室に掲示し、機会あるごとに約束を振り返り、実践した。また、宿題や自主学習等で生かせるよう、集会活動等でも指導を行っている。	坂元小
				A	・各教室や階段に掲示するとともに、毎月はじめに活用状況について確認した。養護教諭部会のアンケートを活用し意識付けを図った。	山下小
				A	・生活習慣については、懇談会等で保護者に啓発した。本校では、毎朝の検温を通年で行っていることが、生活習慣の乱れを防ぐ一因になっている。	山一小
				A	・常に学級を通じて指導が行われ、児童会としてノーメディアデーの「山二の日」を設定して実践している。また、3つの約束に関わるアンケート結果を活用し、課題の解決に向けた指導を深めている。	山二小
				A	・スマホなどメディアに関わる外部講師を招いての講話を2回開催し、学級でも継続的に指導した。	坂元中
				A	・学級活動の時間を活用し、具体的な指導を行った。	山下中
		<p>保護者への適切な啓発と連携</p>		A	・学校だよりに掲載したり、各家庭への資料を配布したりするだけでなく、学級懇談会で話題として取り上げるなど、啓発に努めている。	坂元小
				A	・PTA総会、役員会等で保護者への啓発を図った。 ・1年間、ノーメディアウィークチャレンジを実施した。 ・学級懇談会で情報交換を行った。	山下小
				A	・保護者アンケート結果のお知らせ文書の中で、3つの約束を取り上げ、重点的な取組になっている事を知らせた。各家庭での工夫した取組が行われている。	山一小

学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	町内全校共通の「3つの約束」を下敷き等にして児童生徒に配布・指導するとともに、保護者とも連携を図り、基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。【28年度から】	保護者への適切な啓発と連携	A	・総会や懇談会等において何度も説明し啓発活動を行った。児童の生活習慣・学習習慣の望ましい姿について保護者と共有し、「3つの約束」への理解と協力を得られるように努めた。	山二小
			B	・メディアに関わる講話を保護者と一緒に聴く機会を設けるとともに、PTAの学年懇談会で話題にした。	坂元中
			B	・プロジェクトチームにより作成された資料を保護者に配布し啓発を行った。	山下中
	児童生徒の基礎学力向上を図るため、放課後や夏季休業中等の学習支援を実施する。	補助事業を活用した外部指導者による学習支援（令和元年度から小学校でも実施）	B	・長期休業や放課後の時間ではあったが、児童の学習に対する関心や意欲が高く、効果的だった。	坂元小
			A	・「まなびの森」による夏休みと冬休み、10月から2月の算数学習会を実施した。	山下小
			A	・「まなびの森」による夏季休業中の学習支援及び放課後学習会を実施。児童は、意欲的に参加している。年度末の修了証の授与も取組への励みになっている。	山一小
			A	・町内5年生を対象に夏季休業中に5日、3学期には週1回のペースで外部指導者による算数の学習支援が行われた。子供たちは良く集中して、各児童の主な課題部分を繰り返し取り組み、身に付けるように練習できた。	山二小
			A	・「まなびの森」により、数学及び英語の授業、放課後、長期休業中に学習支援をいただいた。	坂元中
			A	・「まなびの森」による授業支援、放課後学習支援、長期休業中の学習支援を、年間を通して計画的に行うことができた。	山下中
			A	・国の緊急スクールカウンセラー事業を活用し、中学校の授業、放課後、夜間、長期休業中に学習支援及び小学校の長期休業中の学習支援を実施した。	教育総務課
家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	A	・「書くこと」に課題のある児童が多いため、日記指導を家庭学習に取り入れた。以前と比べ、書くことへの抵抗が減り、習慣化されつつある。	坂元小	
		A	・家庭学習の手引きを作成し、習慣化を図ってきた。 ・学習規律を定着させるために、学習への取組方や学習用具、話し方・聞き方について網羅した「学びの基本」を作成している。	山下小	

学力向上に向けた基本的な生活習慣や学習習慣の確立	家庭学習ノートを提出させるなど、学校としての具体的な取組について、指導の充実を図る。	日常的な指導と評価	A	・毎日の家庭学習の取組（ノート等）を担当が点検している。取組状況等、必要に応じて指導している。	山一小
			A	・「家庭学習のすすめ」を示し、家庭学習の提出確認と担任評価を毎日実施した。生活習慣について、毎週月曜日のノーメディアデーの結果について翌日にできたかどうか調べ、児童会から校内公表して自分達で振り返りを継続できるようにし、効果が上がっている。	山二小
			A	・自主学習ノートを提出させた。また、学習計画や学習の仕方について、支援員が指導する場を設け、家庭学習の定着と内容の充実を図った。	坂元中
			A	・SUN（ステップアップノート）を全職員で添削指導し、家庭学習の習慣化及び定着を図った。	山下中
		【その他の評価指標】「家庭学習時間（小5：1時間以上 中1：3時間以上）」「授業が分かる」と答える児童生徒の割合（小5・中1）（「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計）「ゲーム・スマホ等の時間（1時間以内）」		「家庭学習時間」 小：71.4%、中：8.5% 「授業が分かる」 小：国語92.9%、算数94.3% 中：国語91.5%、数学91.5% 英語84.5% 「ゲーム・スマホ等の時間」 小：32.9%、中：35.1%	

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 **重点的事項②**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学力向上に係る学校間の連携	各校の学力調査分析と活用（学力向上プラン）を町内全校で共有し、指導に生かす。	学力調査分析と活用（学力向上プラン）の作成と共有（研究主任者会）	A	町標準学力調査の分析により、重点的に指導すべき内容が明確になった。	坂元小
			A	・研究主任を中心に学力向上プランを作成し、各校の情報や状況を共有することができた。	山下小
			A	・研究主任者会が作成した学力向上プランを校内で共有し、指導に生かしている。今後とも、一つずつ確実な取組を重ね成果をあげていきたい。	山一小
			A	・各調査の結果分析及び学力向上対策を示した学力向上プランを作成し、職員にも共有して指導に生かした。各校の学力向上策について情報交換し、自校の対策に生かせるようにできつつある。	山二小
			A	・標準学力検査の分析結果を保護者及び教員で共有し、指導の充実に向けた努力をした。	坂元中
			A	・生徒の実態を踏まえプランの作成に当たり、具体的な活用法を共有した。	山下中

学力向上に係る学校間の連携	授業参観や情報交換など、学力向上に向け小・中学校間の連携促進を図る。	指導主事訪問時の相互参観、小・中情報交換会等の実施	A	連サポに関連させ、町内4校の小学校で参観や事後検討会を行った。様々な意見が飛び交い、刺激となった。	坂元小
			A	・出前授業や一日体験入学を年間予定に組み込み、計画的に小・中学校間の連携を図ることができた。 ・連携サポート事業により、4校が授業づくりや研究授業、事後検討等で意見交流ができた。	山下小
			A	・町内各小中学校に、指導主事訪問時の公開授業について、連絡をして相互訪問を実施した。授業参観での意見を集め、事後検討会に生かすことができた。	山一小
			B	・指導主事訪問時には各校に参観の案内を出し、少人数ではあったが相互参観が実施できた。情報交換は主任者レベルで行い、校内での授業づくりに大いに刺激となり、役立っている。	山二小
			A	・指導主事訪問時の教員の相互参観や、新1年生の授業参観を行うとともに、情報交換を行った。	坂元中
			A	・小学校への出前授業や一日体験入学を年間予定に組み込み、計画的に学校間の連携を図ることができた。	山下中
幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続が図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	家庭教育学級及び幼児学級の開催、就学予定児童に関する情報交換会の開催【H29～】	A	児童、保護者とも入学前に学校の様子を直に体験してもらうことができ、安心感につながっている。	坂元小
			A	・幼児学級や情報交換会に基づき、入学前の幼児についての実態を把握することができた。	山下小
			A	・幼児学級の開催により、小学校に入学する不安よりも期待が膨らんでいた。教師も、入学前に関わることにより児童の実態把握ができた。	山一小
			A	・家庭教育学級と並行して幼児学級を開催するなかで児童観察ができ、合わせて別に情報交換会も行った。	山二小
			A	・未就学児の保護者同士が互いの思いを共感したり、相談し合ったりすることで、保護者の悩みの軽減や関係づくりにつなげることができた。	生涯学習課
			A	・学校、幼稚園、保育所及び山元支援学校と調整を図り、小学校への円滑な接続ができるよう努めた。	教育総務課

幼保小の連携・交流の促進	幼稚園・保育所から小学校への円滑な接続が図れるよう、小学校就学前の幼児の情報を共有する。	幼保小相互参観、連絡会の開催	A	・年度初めに新入生の様子を見てもらったり、年度末に次年度入学予定児童の様子を参観したりして、大変有意義な情報交換が行われた。	坂元小
			A	・連絡会を開催することで、情報共有が図られ、入学後の指導に役立てることができた。	山下小
			A	・連絡会開催時に幼保の先生による授業参観を行った。小学生の成長を見て感想をもらったこと等大変有意義な連絡会になった。	山一小
			A	・年1回2月に授業公開と幼保小連絡会を実施するとともに、別日には学校から幼稚園保育所を参観した。	山二小

(4) 時代の要請に応えた教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等	
			評価	成果と課題		
高度情報化社会への対応	高度情報化社会への対応、校務の情報化、学力向上等を支援するため、学校におけるICT機器等の充実を図る。【28年度 学校用PC更新】	次期更新時（H33予定）に向けたICT環境（タブレット端末）の検討・整備（MIYAGI Styleの検討）	A	・ICT環境整備に向けて、町内小中学校のICT現況調査を実施した。	教育 総務課	
		校舎及び体育館（避難所）等におけるWifi環境の整備	C	・体育館（避難所）については整備済みだが、校舎については令和2年度整備予定である。		
	情報活用能力の育成とともに、情報モラル教育を推進する。	各教科での指導の充実や「安全教室」の実施等		A	・低・中学年は道徳や学級活動、高学年は加えて学習参観日に親子で情報モラルの学習を行った。教職員には、ICT機器等を指導に生かすための効果的な活用について研修した。	坂元小
				A	・情報活用能力及び情報リテラシー教育を計画的系統的に位置付けて指導してきた。5・6年生が企業と警察とタイアップし、安全教室を実施した。	山下小
				A	・岩沼警察署生活安全課の職員によるネットトラブルの事例を学ぶことにより、危険性と注意点について学ぶことができた。	山一小
				B	・高学年を対象とした安全教室を実施し、保護者にもよびかけ一緒に参観できるようにした。情報モラルは中高学年の指導計画に明確に位置付け、情報モラルの考え方や態度が確実に身につくようにしている。	山二小
				A	・警察や携帯会社に講師を依頼しての「安全教室」「スマホ教室」を全校生徒及び保護者を対象に実施した。	坂元中
				A	・全校生徒を対象に、亘理警察署の協力を得て「情報モラル教室」を実施した。	山下中

環境教育の推進	自然豊かな町の特性を生かした体験活動等を通して、環境教育を推進する。	各教科での指導の充実及び地域体験活動の実施等	A	・校内の緑化推進活動だけでなく、防災教育と関連した防災林としての植樹作業を位置付け、支援団体との学習を深化することができた。	坂元小
			A	・生活科及び総合的な学習の時間に地域の自然を取り入れた見学・体験活動を計画し実施した。 ・学校支援ボランティアとの連携も充実していた。	山下小
			A	・稲の苗植え体験、芋やトマトの栽培等、生育の世話と収穫した後の調理、試食等、貴重な体験をすることができた。	山一小
			A	・防砂林再生グリーンベルトプロジェクトの方を招いての学習会や公園管理会の方を招いての地域緑化の学習会を継続して実施している。	山二小
			B	・校内での美化活動や地区を知るための講話を地域の方を招いて行った。	坂元中
			B	・町ふれあい産業祭では、生徒が環境美化活動に参加するなど環境保全への意識を育んできた。	山下中

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	・教育的ニーズに応じた個別の指導計画等に基づいた教材の要望に迅速に対応し、購入や活用することができた。	坂元小
			A	・特別支援教育支援員3名を配置していただき、児童のニーズに応じた個別支援を実践することができた。	山下小
			A	・特別支援教育支援員の配置により、学力面生活面での配慮を要する児童への個別の支援が可能となり、きめ細かい対応ができています。	山一小
			A	・特別支援教育支援員2名を配置していただき、児童の実態に応じた校内支援体制を整えられた。教育相談を受けている、課題のある児童に学年を超えて対応している。	山二小

特別支援教育の推進	将来的な自立や社会参加に向けて、発達障害を含め一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制等を構築する。	特別支援教育用教材の購入及び特別支援教育支援員の配置と活用	A	・特別支援教育支援員1名の配置により、生徒の教育的ニーズに応じた指導がなされた。	坂元中
			B	・2名の支援員配置であったが、3学級ある現状を踏まえると1名の増員が求められる。	山下中
			A	・各学校の実情に応じ、町負担により各学校に特別支援教育支援員を配置した。	教育総務課
		校内における指導・協力体制の確立、町内交流会の実施等	A	・特別支援教育コーディネーターを中心とした個別のケース会議をする体制を確立したことで、教職員が共通理解のもと、指導に当たることができた。	坂元小
			A	・特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制が整備され、共有した情報に基づいて適切な指導・支援が行えるようになっている。	山下小
			A	・町内交流会への参加により、他校児童との交流ができた。挨拶や自己紹介など自己表現する場面もあり、本時の課題への取組につながった。	山一小
			A	・協力学級での交流も十分に行えている。また、町内の特別支援交流会も充実した内容で計画的に行えた。	山二小
	A		・「気になる子チェック」を行い、通常の学級の中で支援が必要であろうと思われる生徒の支援について、ケース会議を開き、協議した。	坂元中	
	A		・生徒への個別支援体制の整備はある程度整い、具体的な支援内容についての確認を進めた。	山下中	
	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	特別支援教育連絡協議会、就学指導審議会等における協力	A	・山元支援学校教諭による講演や研修等の協力を得て、特別支援教育連絡会を年3回、特別支援連携協議会を年2回実施した。 ・就学相談等で助言をいただき、児童の就学先決定に生かすことができた。	教育総務課
			A	・就学予定児童の中で配慮が必要と思われる児童について個別に指導助言を受けることができた。	坂元小
		幼児学級での観察・指導助言、就学予定児童に関する情報交換会における指導助言等	A	・地域支援コーディネーターによる的確な観察及び、それに基づく指導助言は、指導方法や指導体制を検討する上で大変参考となった。	山下小
			A	・今年度、本校を希望していた児童を山元支援学校の職員も継続的に見てきたことにより、より望ましい就学指導に役立てることができた。	山一小
			A	・山元支援学校との連携により、十分な指導助言を受けることができた。	山二小
A			・山元支援学校との連携により、十分な指導助言を受けることができた。	山二小	

特別支援教育の推進	地域における特別支援教育に関する相談・支援機能を持つ山元支援学校との連携・充実を図る。	幼児学級での観察・指導助言、就学予定児童に関する情報交換会における指導助言等	A	・地域支援事業を活用し、支援学校のコーディネーターに参観してもらうことで、専門的な見地から幼児の様子を学校、委員会とで共有することができ、円滑な就学に生かすことができた。	生涯学習課
			A	・幼児学級等で気になる子どもの様子を山元支援学校教諭に観察してもらい、個々の特性を把握したうえで指導方法等の助言を受けることができた。	教育総務課
		日常的な相談、居住地校交流等による連携	A	・特別支援教育コーディネーターを中心に、山元支援学校と出前授業、交流活動を行い、共生について理解を深めた。	坂元小
			A	・日常的に教育相談等連携しやすい体制が整っている。居住地校交流は、双方の児童の変化（成長）にとって効果的である。	山下小
			B	・特段の相談はなかったが、今後とも気になる子の見立て依頼することを今後とも継続していきたい。	山一小
			B	・児童の居住地交流はないが、山元支援学校とは連携体制が整い、気軽に相談できる関係にある。	山二小
			A	・居住地校学習の対象者はいないが、山元支援学校のコーディネーターに来ていただき、助言をもらった。	坂元中
			A	・居住地校交流では取組が単発になりがちなので、日常的な交流を検討している。	山下中

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな身体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的事項③**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	「特別の教科 道徳」を中心とした道徳教育の改善・充実	B	・実践を通して年間指導計画を見直すなど、着実に取り組んでいる。	坂元小
			A	・作成した年間指導計画及び別葉を基に、「特別の教科 道徳」の実践に努めた。 ・道徳ノートを活用することで、子供たちの振り返りの充実と記録の蓄積をすることができた。	山下小
			A	・資料に基づいて徳目を学ぶ学習、体験を通して学ぶ学習等、心の育成に資する学習に取り組んだ。	山一小
			A	・個人ごとの道徳ノートを活用し、自分で考えたことや友達の意見を聞いて再考したことなど書くことを生かして道徳的な価値に迫る授業づくりに取り組んだ。指導者の話し合わせ方の工夫についてさらに研修を深めたい。評価への活用役に立った。	山二小
			A	・教科化の本格実施に向けて、指導の充実を図るために、指導及び評価の検討を行った。	坂元中
			A	・「特別の教科 道徳」の実施に向けた教員研修等を計画的に行うことができた。	山下中
		各教科等における指導の充実	B	・規範意識に関しては、しっかりと育てていると思われるが、コミュニケーション能力については改善の必要がある。	坂元小
			A	・主体的で対話的な学びについての研修を深め、児童のコミュニケーション能力の育成に努めてきた。	山下小
			B	・普段の学習でのグループ活動による話し合い等、自分の考えをもち他者との考えの交流をすることでコミュニケーション能力を育成してきた。	山一小
			A	・体験を重視し、各教科のねらいをふまえながら言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成を図った。	山二小

規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成	道徳教育、各教科等での指導、各種体験活動・文化活動等を通して、豊かな人間性や社会性を育てるとともに、特に規範意識、コミュニケーション能力の育成を図る。	各教科等における指導の充実	B	・道徳教育全体計画の別葉を基に、それぞれの教科において指導した。	坂元中
			B	・「伝え合う力」の伸長を目標に、各教科において発表活動や話し合い活動を意図的に取り入れた。	山下中
		各種体験活動・文化活動（中学校は部活動も含む）等における指導の充実	B	・地域との関わりを大切にして実践できた。今後は、継続、発展できるような活動を探っていく。	坂元小
			A	・学年の発達段階や学習内容に応じた校外学習や体験活動を計画し、志教育と連動させながら、よりよい人間関係の構築に努めてきた。	山下小
			A	・学習発表会や音楽発表会で、自分たちでよりよい表現を求めて練習に取り組み、本番で成功を収めた。	山一小
			A	・ねらいに沿って学校全体で共通行動をとり、体験活動が充実するよう工夫して指導にあたった。 ・縦割り活動など異学年交流を深める活動を重視し、下級生への思いやりや上学年へのあこがれを醸成する場が充実するよう努めた。	山二小
			A	・教職員が様々な場面で情報を共有し、組織的に協働して指導にあたった。	坂元中
			A	・仲間意識や自己有用感を育てる指導を、各部活動で行った。	山下中
いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	S C、S S W、町教育相談員の配置と相談活動	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各校配置S Cが相談活動に従事し、年間で867件の相談に対応した。 ・S S Wは年間41件の支援に携わり活用が広がった。問題の解決が3件、好転が23件と6割以上が良好な結果となっている。しかしながら活用の少ない学校もあり、S S Wへの理解を進めていく。 ・教育相談員は年間33週学校を訪問し、児童生徒の状況について相談に応じた。 	教育総務課

いじめ、不登校等に対する教育相談活動の充実	いじめ・不登校等の問題に対応するための人的配置、関係機関との連携を含めた相談体制の整備と相談活動の充実を図る。	ケース会議、要保護児童対策地域協議会、いじめ問題対策連絡協議会等の開催	B	・要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、要保護児童等への適切な支援を協議した。	子育て定推課
			B	・年3回開催される要対協実務者会議に出席し、情報共有を図った。いじめ問題対策連絡協議会は2回の開催を計画したが、新型コロナウイルス感染症への対応のため、1回のみ開催となった。	教育総務課
		各学校における教育相談（定期的なアンケート調査の実施、二者・三者面談等）の充実	A	・毎月のアンケートや毎週の面談により、児童の悩みを把握することができ、いじめ等の未然防止や早期発見につながった。	坂元小
			A	・月1回の学校生活アンケートを通して、児童の悩みや問題を把握し、いじめの早期発見、未然防止につなげることができた。QU調査により、学級の実態を把握し、よりよい学級づくりに生かした。 ・年2回の教育相談期間を設け、保護者と情報交換をすることができた。	山下小
			A	・月1回の生活アンケートを実施。気になる記入はすぐに対応した。いじめ等、大きな案件はなかった。	山一小
			A	・学校生活アンケートといじめアンケート、QU調査によって児童の実態把握に努め、結果をすぐ指導に生かすよう心掛けた。 ・不登校対応として、SSW・SCと連携を密にし、不登校の兆候が見られる児童に対して早期対応に心掛けた。同時に保護者への支援についても学校全体で協力体制を整えた。	山二小
			A	・学校生活アンケートを月1回実施し、ケース会も2か月に1回定期的に行った。教育相談も計画通りに行った。	坂元中
			A	・月1度の「学校生活アンケート」の実施及び事後の相談活動を年間を通して行った。	山下中
【その他の評価指標】「自分にはよいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」「小学校に比べ中学校の学校生活は楽しい」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）※「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の計			「自分にはよいところがあると思う」小：74.2%、中：76.6% 「学校に行くのは楽しい」小：87.1%、中：87.3%		

(2) 健康な身体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的事項④**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	保健体育の授業を中心とした指導の工夫	A	・授業の導入時、体力づくりに特化した縄跳び等の活動を取り入れ、持久力の向上につながった。	坂元小
			A	・個の運動量を確保する内容を工夫した。 ・養護教諭と連携して保健の授業を行い、健康の保持増進への意欲喚起に努めた。	山下小
			A	・一人一人に目標をもたせて取り組み、事後に振り返りを行うことで自分の成長を実感させることができた。	山一小
			A	・体育の授業の中で、数分間縄跳びや長い距離を走る運動に継続して取り組ませるなど、年間を通して行った。	山二小
			A	・スポーツテストの結果から、一人一人の補強ポイントを探り、個々の指導を充実した。	坂元中
			A	・準備運動の行い方に工夫をし、意図的に体力向上を図った内容とした。	山下中
		運動会や持久走大会の実施など、体力・運動能力の向上につながる行事の工夫	A	・体育や業間運動で体力や持久力の向上を目指すとともに、運動会や持久走大会につながるよう工夫した。	坂元小
			A	・体力・運動能力を向上させるために、継続的な取組を実践してきた。 ・泳ぎが苦手な児童のための水泳教室を実施した。	山下小
			A	・児童は、自分たちの目標を設定して取り組んだ。主体的な活動は、勝敗を超える価値があった。	山一小
			A	・持久走大会及び業間マラソン、縄跳び活動などのイベントを行い、児童が意欲をもって取り組める行事を行った。	山二小
			B	・スポーツに関するNPOに指導を受けるなどの機会を設けたが、運動会などの行事は設けていない。	坂元中
			B	・スポーツテストの結果を振り返り、各自の体力向上への意欲付けにつなげた。	山下中

身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	授業や行事（中学校は部活動も含む）等を通して、身体づくりについての関心・意欲を高めるとともに、体力・運動能力の向上を図る。	業間を活用した全校一斉の取組など、授業・行事以外の取組の工夫（中学校は部活動も含む）	A	・体力運動能力テストの結果から、本校の課題を把握し、業間のマラソンや縄跳びの改善及び継続を図り、進んで取り組む児童が出てきた。	坂元小
			B	・縦割りグループを活用して体力向上に向けた取組を行った。	山下小
			A	・毎週2回、業間ランニングを実施した。教職員も積極的に参加し、楽しく運動することができた。	山一小
			A	・業間たてわり遊びや持久走大会と関連させた業間マラソンを実施した。	山二小
			A	・生徒、教員ともに部活動には熱心に取り組み、体力の向上に努めた。	坂元中
			A	・部活動指導において、体力の向上に努める運動に積極的に取り組んだ。	山下中
				【その他の評価指標】児童生徒の体力・運動能力調査結果に見られる改善傾向(小5、中2)	<p>握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、持久走（中学校のみ）のうち、県平均を上回っているもの。</p> <p>小 男子：握力、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、50m、ソフトボール投げ 小 女子：握力、反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げ 中 男子：反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、ハンドボール投げ 中 女子：反復横とび、持久走、20mシャトルラン、ハンドボール投げ</p>
身体づくり 及び体力・ 運動能力向 上に向けた 取組	（中学校）地域人材を活用し運動部活動の充実を図る。	外部指導者の活用	B	・バスケットボール部で活用した。適切な活用の仕方を今後も検討していきたい。	坂元中
			B	・部活動外部指導者と連携を図り、生徒の体力・技能の向上に努めた。	山下中
			B	・部活動の各種競技について、知識のある外部指導者を採用し、生徒の技能向上に努めた。 ・部活動外部指導者について、県での予算措置は令和2年度までとなり、町予算での部活動指導員の導入を検討する必要がある。	教育 総務課

スポーツを通じた心と体の育成	体育振興や健康増進を目的に、各競技団体やサークル活動の支援等を行い、生涯スポーツの充実を図る。	県スポーツ協会等が主催する各種大会等の情報提供	B	・各種団体に情報提供を行った。	生涯学習課
		町広報誌やホームページ等を活用した活動紹介や会員募集の推進等	A	・各種団体の依頼に応じ、広報等への掲載を行った。	
		スポーツ推進委員の派遣事業	A	・出前教室として、各小学校の体力テストや、各種事業へ派遣を行った。	

(3) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
食育の推進と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	学校給食と各教科等との関連を図った指導の充実	A	・食に関する指導を学活、家庭科等の年間指導計画に位置付けて実践し、理解を深めた。	坂元小
			A	・食に関する指導の年間計画を基に、学級活動や生活科、家庭科、道徳と関連させて、食事の重要性や食文化、感謝の心を育ててきた。	山下小
			B	・栄養のバランスがとれたメニューが、体づくりにどれだけ大切かを、家庭科や理科（人の体のつくり）で学んだ。	山一小
			B	・望ましい食習慣を身に付け健康増進に役立つ食物の働きの理解を深めるため、各教科・学級活動・道徳などで学年の実態に合わせた指導を行った。	山二小
			B	・家庭科の授業や学級で食の大切さについて指導した。	坂元中
			B	・学校給食と技術・家庭科との関連を図りながらの授業展開を工夫している。	山下中
		栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	・本校児童の様子や個別に指導が必要な児童について職員で情報交換を行い、食の大切さについて学級活動の中で指導することができた。	坂元小
			B	・給食の時間の栄養教諭に各学級を参観してもらい、情報共有に努めた。	山下小
			B	・給食メモを、昼の放送で読み上げることで、児童は食育への関心を高めることができた。	山一小

食育の推進 と充実	児童生徒が望ましい食習慣を身に付け、将来にわたって健康増進が図られるよう、学校給食や栄養教諭等を活用して、計画的に食育を推進する。	栄養教諭等と連携した計画的な指導の充実	A	・栄養教諭を中学校から招き、各学年において食育の授業を行い、小学校での食育指導と関連させて充実を図った。	山二小
			B	・栄養士が原稿を作成し、給食時間に放送委員が読んだり、給食だよりを発行することで、年間を通して、食育の大切さを伝えた。	坂元中
			B	・栄養教諭が給食だよりで、時季に応じた話題を取り上げ、多面的に食の大切さを理解させた。	山下中
		【その他の評価指標】「朝食を毎日食べてくる」と答えた児童生徒の割合（小5・中1）		小：95.7%、中：89.4%	
	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	学校給食への地元食材の積極的な導入	A	・献立表への記載、給食時間の放送で、地元食材のPRや地域の特産品、生産者の思いなどを紹介している。	坂元小
			A	・積極的に地元食材を導入しており、献立表に明記したり、食材に関するコメントを給食時に放送したりして全校に知らせている。	山下小
			B	・地場産品を紹介することで、より一層給食を味わって食べていた。	山一小
			B	・栄養教諭からの地元食材等のコメントを校内放送を通じて児童に伝え、関心と理解を深めるようにした。	山二小
			A	・栄養士が積極的に献立に地元食材を取り入れた。	坂元中
			A	・地域の素材を積極的に取り入れた献立づくりを行った。	山下中
B			・食材納入業者のうち、一部地元業者が参入し、地元野菜を納入している。	教育 総務課	
郷土料理体験の実施（小5 はらこめしづくり）	A	・「はらこめし」の郷土料理体験を総合的な学習の時間の中に位置付け、それに携わっている人々の思いや願いなどにも触れることで関心を高めた。	坂元小		
	A	・郷土料理体験は、町の食文化への関心を高め、食育やふるさと教育の観点からも非常に有意義であった。	山下小		

食育の推進と充実	地場産品や町の食文化に触れる機会を設け、子どもたちの食に対する関心・理解を深める。	郷土料理体験の実施（小5 はらこめしづくり）	A	・鮭をさばいて、そこから卵や汁のだしを取るところまで実勢に学ぶという大変貴重な経験をすることができた。	山一小
			A	・「はらこめし作り」での郷土料理体験は地域の方に教えられ、地元の食文化を知ることができるとても充実したものとなった。	山二小
			A	・小学5年生を対象に「郷土料理体験事業はらこめしづくり」として、調理体験を行い、地元の食材に興味関心をもってもらうことができた。	教育 総務課

（４）心身の健康を保つ学校保健の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校保健の充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康診断、環境衛生検査等の実施	A	・養護教諭を中心に児童の健康状態を確認し、内科、歯科、耳鼻科、眼科等校医と連携して、確実に健康診断を実施している。	坂元小
			A	・学校保健計画に基づき、健康診断、環境衛生検査等を計画的に実施した。	山下小
			A	・計画的に実施することができた。治療勧告を保護者宛に文書で出すことで虫歯の治療率を上げることができた。	山一小
			A	・健康診断・環境衛生検査は完全実施。児童の虫歯（未処置率）が減少した。	山二小
			A	・適切に健康診断を実施するとともに、薬剤師による環境衛生検査を実施した。	坂元中
			A	・計画的かつ適切に健康診断を実施できた。	山下中
			A	・耳鼻科校医の逝去による交代があったが、関係機関と連携し、無事に健診・検査を実施できた。	教育 総務課

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	健康保持増進につながる日常的な指導、環境整備等	A	・「家庭の日」を設定し、家庭と連携した健康教育を推進したり、歯科医と連携して歯磨き指導を行ったりして、健康への理解を深めている。	坂元小
			A	・むし歯予防に向けた日常的な歯みがき指導、肥満対策として対象児の継続的体重測定等に取り組んだ。	山下小
			A	・教室の換気は、年間通じて実施している。また、手洗い指導の徹底も図られている。清掃時には養護諭が自ら声がけしている。	山一小
			A	・年間を通した「早寝早起き朝ごはん運動」、各学級で取り組む歯磨き活動の継続指導、十分な手指洗いをを行うための実践指導など、日常指導の充実を図っている。	山二小
			A	・健康診断等の結果を受け、必要に応じて病院での受診を促した。また、養護教諭、栄養士等が給食時に教室をまわり、健康に関する助言を行った。	坂元中
			A	・養護教諭による健康相談等、放課後を活用し実施した。	山下中
		保健だよりの発行等による家庭との連携	A	・定期的に発行している保健便りで学校の様子や取組、家庭からの情報などを紹介し、家庭との連携を図っている。	坂元小
			A	・毎月定期的に保健だよりを発行し、健康に関する情報発信を行うとともに、家庭への啓発を図った。	山下小
			A	・毎月保健便りを発行し、保護者への保健面での啓発を図っている。	山一小
			A	・保健だよりでは、毎月の保健目標に即したものを掲載し健康づくりに関して情報を積極的に発信した。	山二小
			A	・保健だよりを月1回、定期的に発行し、家庭との連携を図った。	坂元中
			A	・定期的にその時期に応じた内容を精選し、保健だよりで保護者への啓発を図った。	山下中

学校保健の 充実	学校保健計画に基づく児童生徒の健康保持増進、家庭や医療機関との連携による学校保健の充実を図る。	学校保健会の開催等による学校医との連携	A	・体力運動能力テスト等から児童の体力についての検証や、校医からの学校課題に対する助言を指導に生かしている。	坂元小
			A	・年間計画に基づく学校保健委員会を開催し、指導事項を教育活動に反映するよう努めた。	山下小
			A	・学校医から、感染症が校内に入らないようにすることが重要であると指導を得たことは、大変貴重だった。	山一小
			A	・年1回ではあるが、学校保健会を開催して学校医の先生方から指導をいただき、学校保健指導に生かした。	山二小
			A	・学校保健委員会を開催するとともに、感染症やケガなどについて、学校医の助言を受けて対応した。	坂元中
			A	・学校保健委員会等で学校医との連携を図ってきたが、日常の連携方策の検討を要する。	山下中
		【その他の評価指標】児童生徒の肥満率や虫歯の保有率の改善傾向	肥満率(軽度・中等度・高度肥満の合計の割合) : H30 13.6%、 R1 13.8% 虫歯保有率(未処置歯所有者数の割合) : H30 19.7%、 R1 16.8%		

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 **重点的事項⑤**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
小・中学校再編	児童生徒数の減少による課題を踏まえ、児童生徒にとってよりよい学び(学校生活)ができるよう、小・中学校の再編に取り組む。	再編準備委員会(全体会・代表者会・各検討部会)の円滑な運営	A	・準備委員会を円滑に運営でき、山元中へ通学する生徒や保護者の視点での話し合いを行うことができた。	教育総務課
		新設学校の適切な準備と魅力ある学校づくり	A	・具体的な取組を行うための準備を校内外で行った。	坂元中
			A	・生徒の前向きな意識を醸成する指導を進め、開校時に両校から集まった生徒達が気兼ねなく学校生活を送ることができるよう配慮してきた。	山下中
			B	・準備委員会が中心となり、校名や校章、制服が制定された。今後、校歌や運動着等の制定、スクールバス導入について話し合いを進めるとともに、両中学校で山元中の教育計画の作成を行う。	教育総務課
		伝統と校風の継承を目指す開校準備業務の推進	A	・よい伝統を継承しようとする意識を身に付けさせるとともに、閉校に向けての準備を行った。	坂元中
			A	・計画的に諸会議を重ね、両校の伝統と校風を生かす新設学校を開設する準備を進めてきた。	山下中
			B	・山元中の「目指す学校像、生徒像」が示され、それに沿って開校準備業務にあたった。	教育総務課
		再編業務の町民への周知とコンセンサスの醸成	B	・PTA総会前に周知の機会を設けた。また、校名、校章のデザイン募集、制服のプロポーザルを実施した。	坂元小
			B	・再編に関する文書を総会資料に添付・配付した。また、必要な情報について、学校だよりに掲載し周知に努めた。	山下小
			A	・部会での丁寧な話し合いにより、再編に向けての準備を着実に進めることができた。	山一小
			A	・PTA総会や学年懇談、学校だよりなどを通して、学校再編の内容を説明し、進捗状況を伝えながら、周知やコンセンサスの醸成を図ってきている。	山二小
			A	・再編業務を行う上で、PTA及び同窓会等の意見を聞くなど連携を図った。	坂元中
		A	・学校だより等で保護者への情報提供と現在の進行状況を周知してきた。	山下中	

小・中学校再編	児童生徒数の減少による課題を踏まえ、児童生徒にとってよりよい学び（学校生活）ができるよう、小・中学校の再編に取り組む。	再編業務の町民への周知とコンセンサスの醸成	B	・「広報やまもと」や町ホームページ、「山元中だより」で広く町民に周知した。町内小・中学校で制服の見本展示や校歌作成のワークショップを行うなど児童・生徒や保護者の意識を高めた。	教育総務課
---------	---	-----------------------	---	---	-------

(2) 「みのりプロジェクト」(学校教育充実事業) 推進による学校教育の充実 **重点的事項⑥**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校教育の充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	推進会議および知育・徳育・体育各部会での課題の協議と改善策の推進	B	・3回の推進会議を開催し、学校教育充実の方向性を探りながら各種教育充実策を実施した。コミュニティ・スクールの推進など喫緊の課題に対応しながらも豊かな心と確かな学力を育む教育のさらなる充実を図っていく。	教育総務課
		知育・徳育・体育の各領域の教育活動の活性化	A	・連携サポートによる授業改善、学力テストの分析により、教員間の課題意識の共有化が図られた。	坂元小
			A	・重点努力事項「学力の向上」「思いやりの心の育成」「体力・防災意識の向上」として、様々な手立てを講じて実践してきた。	山下小
			A	・町内生徒指導担当者の話合いにより、山元町の児童生徒の実態に応じたパンフレットを作成した。次年度の実践に生かしていきたい。	山一小
			A	・知徳体の実践の活性化は、学力向上・授業研修・いじめ不登校対策の強化・体力づくり・望ましい生活習慣づくりなどを、みのりプロジェクトの取組を反映させながら、充実を図れるようになりつつある。	山二小
			A	・町の各部会からの提案などを校内で共有し、その充実に努めた。	坂元中
			A	・各学校長がリーダーシップをとり、地域や児童生徒の実態に応じた事業を計画し取り組んできた。	山下中
			B	・連携サポート事業による授業改善を柱として、いじめ・不登校をなくす取組、テレビゲーム等メディア活用の在り方の指導などにより活性化が図られた。	教育総務課

学校教育の充実	教育の方向性や取り組むべき課題について協議するとともに、知・徳・体の各領域における課題や改善策について検討し、町全体として学校教育の充実に取り組む。	関係機関等（大学・幼保・保護者・地域）との連携・協力	B	・三つの約束の「スマホ・ゲームの約束」について実態調査を行い、啓発に努めた。更なる保護者との連携が必要である。	坂元小
			A	・総合教育センターの指導の下、連携サポート事業に取り組んだ。 ・協働型学校評価重点目標を設定し、学校・保護者・地域が一体となって取り組んだ。	山下小
			B	・野澤先生のアドバイスにより、「山元町の強み」との視点で事業の重点化を図っていききたい。	山一小
			B	・幼保・保護者・地域との連携については、年々連携強化の取組を重ねつつあり充実してきていると考える。大学との連携は計画段階であり、実践・検証をしながら深めていくべき課題と考えている。	山二小
			A	・機を捉えて、保護者、地域との意見交換などを行い、連携、協力しながら教育活動を行うことができた。	坂元中
			A	・地域での職場体験や学区内の幼稚園・保育園との連携による幼児とのふれあいなど、生徒達が地域との関係性を意識できる授業を取り入れてきた。	山下中
			B	・各校で特色を生かしながら連携・協力を進めた。大学連携では尚綱学院大学と連携協定締結に至った。	教育総務課

(3) 豊かな学びを創造するコミュニティ・スクールの推進 (重点的事項⑦と関連)

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置と学校運営への反映	C	・学校運営協議会について、各種会議等で情報交換した。今後、中核となる人材の候補を検討していく必要がある。	坂元小
			A	・将来のコミュニティ・スクール設置を見越して、既存のサポート委員会の活用を図ってきた。	山下小
			B	・学校ボランティアによる教育活動への支援がある。今後、町としてコミュニティ・スクールの全体像を明確にしていくよう取り組みたい。	山一小

学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置と学校運営への反映	B	・自校で学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置ができるように、職員会議でその設置の概要を周知したり、校内の多くの協議会や委員会などの統廃合を行うために、必要なことはどんなことか検討し始めている。	山二小	
			N	・本町では、コミュニティ・スクールが導入されていない。	坂元中	
			N	・未設置	山下中	
			B	・令和3年度からの段階的な設置へ向け校長の研修を実施するなど、準備を進めた。	教育総務課	
	学校評価や学校関係者評価の充実	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校評価や学校関係者評価の充実	A	・保護者や地域の方々の思いや願いを受け止め、ともに児童の健全な育成に取り組み、肯定的に評価していただいている。	坂元小
				A	・学校評価や学校関係者評価、保護者や児童アンケートを実施し、教育活動の改善を図ることができた。	山下小
				A	・保護者が学校に期待することを丁寧に聞き取りながら、自己評価に反映させてきた。	山一小
				A	・学校評価の資料として保護者・児童へのアンケート調査を実施し、学校運営の改善に生かした。また集約結果をまとめて改善方策を周知し、学校運営への理解を得ながら協力頂けるように努めた。	山二小
				A	・保護者及び生徒アンケート、自己評価を基に、PDCAサイクルを行った。	坂元中
				A	・学校評価を数値化し、評価・検証を行うと共に、結果の公表を行った。	山下中
	学校評議員会の開催と学校運営等への反映	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校評議員会の開催と学校運営等への反映	A	・年3回学校評議員会を開催し、学校や地域についての意見を交換し、公表するとともに、随時学校運営に生かすことができた。	坂元小
				A	・年間3回のサポート委員会（学校評議員会）を開催し、いただいた意見を学校経営に生かすよう努めた。	山下小
				A	・学校の重点的な取組の周知をした。今後とも地域の関係者による意見を教育活動の充実に生かしていきたい。	山一小

学校運営等の自律的改善	学校と保護者・町民がともに知恵を出し合い、協働しながら学校づくりを進める。	学校評議員会の開催と学校運営等への反映	A	・学校評議員会（サポート委員会）を年2回開催し、学校運営に関して様々な意見を求めて生かしてきた。	山二小
			A	・学校評議員会を年2回開催し、学校評議員の意見について、必要に応じて校内で検討し、学校運営に生かすことができた。	坂元中
			A	・年間2回の評議員会を開催し、意見の集約に努めた。	山下中
	地域人材を活用し、教育活動の充実を図る。	専門的知識や技能を有する地域人材の教育活動への積極的な活用	A	・総合的な学習の時間で、地域の実態や産業について学習する際にゲストティーチャーとして積極的に関与している。	坂元小
			A	・各学年の学習内容や学校行事の内容に合わせた外部講師や読み聞かせボランティアの活用を図り、学習効果を高めた。	山下小
			A	・合唱指導などを、専門的な方に指導をしていただき、質の高い合唱に生かすことができた。	山一小
			A	・読み聞かせボランティア・イチゴ農家・植林団体・民謡指導など、教育活動に多くの地域人材を活用できた。	山二小
			A	・「話し方教室」や「山元町の歴史を知ろう」などでは、地域の方に講師を依頼して実施した。	坂元中
	A	・関係諸機関や地域人材をゲストティーチャーとして招き、協働し生徒の指導にあたった。	山下中		

(4) 学習環境の整備充実と再編に伴い廃校となる校舎等の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
学校からの 情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信する。	学校だより、学校ホームページ等の充実と積極的な情報発信	A	・定期的に学校だよりや安全だより、保健だより等で紹介したり、ブログで情報発信したりした。	坂元小
			A	・学校だよりの定期的な発行により、保護者や地域に対して情報発信ができた。また、必要に応じて学校ブログで情報発信した。	山下小
			A	・担当者を決め、様々な教育活動をホームページで発信することができた。	山一小
			A	・学校だよりを地域にも発信している。また、ホームページにも掲載している。ホームページの更新を適宜行ってきた。	山二小
			B	・学校だよりを定期的に発行し、地域で回覧してもらうなど、地域への情報発信を行ったが、ホームページを更新することができなかった。	坂元中
			B	・学校ホームページの更新の頻度を増やすことで、情報の発信を進めてきた。	山下中
		学校行事やフリー参観等の実施による積極的な学校公開	A	・参観日や行事等への保護者の参加率は高い。フリー参観、祖父母参観を実施し、児童と教師、児童同士のかかわり等を見ていただいている。	坂元小
			A	・学習参観（フリー参観）や学校行事、学年PTA行事を通して、積極的に教育活動を公開した。	山下小
			A	・授業参観、運動会、お祭り集会など、積極的に教育活動を公開してきた。(年間10回)	山一小
			B	・積極的に学校を公開し、保護者のみならず地域にも理解を得られるようにしている。	山二小
			A	・フリー参観の日を設定するとともに、文化祭など学校行事の日程を広報し、開かれた学校の実現に努めた。	坂元中
			A	・授業参観日を土曜日に設定し、多くの保護者の参加を得ることができた。	山下中

学校からの情報発信	開かれた魅力ある学校づくりを推進するため、積極的に情報を発信する。	【その他の評価指標】「学校の積極的な情報発信」に関する保護者の評価（学校評価アンケート等から）	「学校は情報発信に努めている」等の設問に対して、保護者の肯定的な回答（あてはまる・どちらかといえば当てはまる） 各校の評価 81～100%（平均91%）		
学校施設の計画的な改修	坂元小学校における校庭改良工事を実施する。	平成28年度実施設計、平成29年度施工（補助事業）	A	・工事完了	教育総務課
	学校環境整備事業（学校敷地内除草）を実施する。	シルバー人材センター（業務委託）による学校敷地内除草を年2回実施	A	・毎年実施	教育総務課
	児童生徒の快適な学習環境を作るため、計画的に校舎等の整備改修を実施する。	学校長寿命化計画の策定	A	・策定済み	教育総務課
老朽化した校舎の改修及びエアコンの整備・トイレ洋式化への切替（学校環境改善交付金の活用）		B	・エアコン整備済み・トイレ洋式化坂元小完了		
教材教具の充実	時代に即した学習教材等の充実を図る。	教科書採択に伴う指導書等の整備	A	・各学校に整備済みである。	教育総務課
		運動用具等の更新及び学校図書等の充実	B	・運動用具等については、毎年、新年度予算編成に併せ、学校と調整を図り、整備に努めている。 ・図書については、毎年クラス数に応じた予算を計上し、新刊購入費等に使用している。	
保護者の負担軽減	子育てしやすい環境整備を図るため、各種助成制度や補助金等の創設・拡充を検討し子育て世帯の負担軽減を図る。	入学児童生徒の就学援助（新入学学用品）の前倒し支給	A	・平成30年度から実施済である。	教育総務課
		学校給食費の補助制度の検討・実施	A	・平成31年度から事業を開始した。	
		奨学貸付金の検討（給付型・免除制度等）	N	・現在検討段階である。	
		小学校入学祝い金の支給	A	・平成29年度から第3子以降の小学校入学者へ30,000円を支給する事業を開始し、令和元年度は対象者15人に支給を行った。	子育て定推課
廃校となる校舎等の活用	学校施設がもつ機能を最大限に生かした利活用を目指す。	機能を生かした効果的な利活用を図る。	D	・関係課で学校施設に係る利活用の打合せを行い、施設の概要や廃校施設の有効活用事例について情報共有を図った。 ・学区内の町民や議会の意見も確認しながら進める必要がある。	教育総務課

廃校となる校舎等の活用	学校施設がもつ機能を最大限に生かした利活用を目指す。	学校備品の効果的な活用を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校再編準備委員会の検討部会において検討を行い、2つの中学校において備品等の確認を行うこととした。 ・ 不要な備品についても、新中学校開校後に小学校等に確認していただき、可能な限り利活用を図る。 	教育総務課
-------------	----------------------------	-----------------	---	---	-------

(5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	「山元町立小中学校における働き方改革に係る指針」の策定と運用	B	・ 指針に基づいて運用しているが、教職員全体として理解が不十分だと感じている。会議や打合せ等でも周知を図っていきたい。	坂元小
			B	・ 金曜日を定時退庁日に設定し、勤務時間の適正な管理に努めた。また、年休が取得しやすい環境づくりに努めてきた。	山下小
			B	・ 現状を反映した仕事ができるよう見直してきたので、少しずつ働き方への意識が変わってきた。	山一小
			B	・ 山元町の指針について、職員会議で共通理解を深め、主旨が徹底できるよう意識を高めて取り組んでいくことを確認している。	山二小
			B	・ 勤怠システムの適切な運営を行い、管理職等による退勤の声掛け等を行った。	坂元中
			A	・ 職員の勤務時間に対する意識を改善し、効率的な業務への取組を進めてきた。	山下中
			B	・ 指針の策定には至っていないが、勤怠管理システムを導入し運用している。	教育総務課
		教職員に対する健康診断事業の実施	A	・ 養護教諭を中心に、各種健診の周知や個別に受診できる検診等のサポートをしている。	坂元小
			A	・ 教職員の希望により健康診断の受診日や場所を柔軟に対応できるよう努めた。また、再診を積極的に勧めた。	山下小

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	教職員に対する健康診断事業の実施	A	・健診結果により、要再検は医療機関受診を勧めた。	山一小
			A	・町の健診や個人希望の健診など年度当初より可能な限り、必要性の高い年代毎の健診を意識して申し込むように共通理解している。	山二小
			A	・積極的な健康診断等を促し、多くの職員が各種検診を行った。	坂元中
			A	・ドック等の健診についての情報発信を積極的に行った。	山下中
			A	・計画通りに健診を実施。ストレスチェックを新たに導入した。	教育総務課
	健康管理対策実施要領に基づく在校時間の把握と指導（勤怠システムの導入と活用）		A	・水曜日を定時退庁日として設定し、適正勤務を支援したり、適正勤務に向けて職員会議や打合せ等で周知したりしている。	坂元小
			A	・在校時間記録簿の提出（10月からはタイムカード）により、勤務時間の把握を行い、時間外勤務の縮減を図った。	山下小
			A	・勤怠システムの導入により、正確な在校時間の把握ができ、適切な声かけが可能となった。	山一小
			A	・勤怠システムが導入され、以前より勤務時間の短縮を意識するようになってきた。退庁時刻を数分でも早められるよう、声掛けを行っている。在校時間の把握については、以前より短時間に集約できている。	山二小
			A	・勤怠システムで在校時間を把握し、在校時間が長い教職員には、管理職が指導及び助言を行った。	坂元中
			A	・在校時間記録の累積から勤務に関する実態の把握に努め、適宜職員への指導を行った。	山下中
			A	・勤怠管理システムを導入し在校時間を把握している。	教育総務課

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	労働安全衛生委員会の設置	B	・職員の在校時間を把握し、学校としての傾向や個々の職員の動向に対する対策を考えることができた。また、職場環境の改善に向けて話し合うことができた。	坂元小
			A	・規程に基づき労働安全衛生委員会を3回開催した。協議された内容については職員と共有し、改善を図るよう努めた。	山下小
			A	・校内での課題を率直に話し合い、必要に応じて適宜改善に取り組んできた。	山一小
			B	・労働安全衛生委員会での話し合いにおいて、健康で安全な勤務環境となるよう課題を話し合った。会議の時間軽減・事務の電子化・学校教育内容のスリム化などが話され、会議時間や事務電子化はできることをすぐ取り入れる方向で共通理解している。	山二小
			B	・定期で行わなかったが、職員の状況について、管理職等で情報共有し、来年度は各学期1回の定期開催とすることとした。	坂元中
			B	・定期で行わなかったが、職員の状況について、管理職等で情報共有した。	山下中
		校務システム導入による効果的な校務運営	N	・導入を強く希望する。	坂元小
			N	・校務システム導入を待っている状態である。	山下小
			B	・情報が担当者毎で作成する無駄を省くため、統合した校務支援システムの早期の導入が望まれる。	山一小
			A	・指導要録や通信票など、新学習指導要領に対応する様式を検討・作成し、活用できるようになった。	山二小
			A	・職員の共有ファイルを設け、データを共有することで効果的、効率的に校務を行っている。	坂元中
			N	・統合的な校務システムが未導入で、業務の効率的な運用に支障があり、学籍、成績、健康管理等の入力、帳票出力を含めた制度設計と、早急な導入が望まれる。	山下中
			N	・現在検討段階である。	教育 総務課

教職員の健康管理と多忙解消	健康診断事業や勤務時間の把握等を通して、教職員の健康管理、適正勤務について指導支援する。	「山元町立中学校に係る部活動の方針」の遵守や部活動指導員の配置等による教員の過度な負担の是正	C	・平日及び土・日曜日の週1回の休養日の設定を確実に行うなど、部活動は適切に行われ、外部指導員も1名配置した。ただ、依然として部活動については、教員の負担となっている。	坂元中
			B	・部活動方針の遵守による活動時間の制限や適切な休養日の設定により、負担が是正される傾向にある。	山下中
			B	・中学校において、部活動方針を遵守し活動している。 ・部活動指導員の配置には至っていないが、部活動外部指導者を配置し教員の過度な負担の是正に努めた。	教育総務課
		留守番電話導入による教職員の時間外対応の削減	N	・未導入	坂元小
			N	・未導入	山下小
			N	・未導入	山一小
	N		・未導入	山二小	
	N		・未導入	坂元中	
	N		・未導入	山下中	
	B		・留守番電話は導入したが、運用までは至らなかった。令和2年度から運用する。	教育総務課	
	行事や会議、業務等を見直し、多忙解消を図る。	学校給食費の集金方法の見直し	A	・地区担当者が学校給食費を集金し、納入する方式が根付いてきた。入金事務までは担任外が行うなど、担任の負担軽減が図られた。	坂元小
			A	・全ての集金は口座振替となっている。集金方法については現状のままが良い。 ・未納者に督促を行い、最終的に全納いただくことができた。	山下小
			B	・公会計化は現場としては大変ありがたいが、担当する方には、大変なご苦勞を掛けることになることが懸念される。	山一小

教職員の健康管理と多忙解消	行事や会議、業務等を見直し、多忙解消を図る。	学校給食費の集金方法の見直し	B	・集金方法の見直しについて、代替案がなかなかないので、学校にいらした際に、未納の確認をするように気を付けている。	山二小
			A	・本校では地区の集金係の保護者が行っており、集金率は100%である。事務等の負担はない。	坂元中
			C	・共同調理場の会計担当校としての業務が煩雑で業務多忙となっている。公会計への早期切り替えを強く望む。	山下中
			B	・これまで学校が独自に学校給食費会計を持っていたが、令和2年度からの公会計化に向け準備を行った。	教育総務課
	行事や会議等の精選及び業務の効率化		A	・全体で行う会議や内容を精選し、主任者や担当者、部会等の少人数会議による時間短縮を試み、効率化を図った。	坂元小
			B	・学校評価等での反省を基に、学校行事の精選や会議内容の見直し・時間短縮に努めてきた。	山下小
			A	・同じようなメンバーが集まる会議を統合するなどの見直しを図ってきた。さらに進めていきたい。	山一小
			B	・会議については、長くても1時間程度を目標に、スケジュールを計画し、1人何分までと意識するようにしている。行事等のスリム化にもさらに取り組んでいきたい。	山二小
			A	・会議は最小限にとどめ、行事は担当の案を検討し、適切に実施されている。	坂元中
			B	・会議の精選と効率化を図り、行事のスリム化に取り組んだ。	山下中

学校事務共同実施の推進	共同実施の推進・充実により、教員の負担軽減、学校事務の効率化、学校運営支援を図る。	学校事務の共同実施に係る指導支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学校事務職員が連携することにより新規採用職員や本町が初めての職員が配置された場合もスムーズに事務を行うことが出来ている。 事務職員で組織する委員会を定期的で開催しているが、今後、いかに教職員の負担を軽減していくかが課題である。 	教育総務課
		各校における共同実施に関する理解促進と協働体制の確立	B	<ul style="list-style-type: none"> 共同実施における共通認識の共有や各学校の事務処理が同一歩調でできたことで、初任者の負担の軽減につながられている。 	坂元小
			A	<ul style="list-style-type: none"> 学校事務支援室が効率的に運営されており、情報の共有化が図られたことで、事務負担の軽減につながっている。 	山下小
			A	<ul style="list-style-type: none"> 新任事務職員等への支援など、共同して取り組んできたことの効果があった。 	山一小
			B	<ul style="list-style-type: none"> 共同実施で話し合われた内容のエキスを、職員会議で周知し、校内ですぐに反映できるように、理解促進や協働体制を意識化している。 	山二小
			A	<ul style="list-style-type: none"> 共同実施は定期的に行われ、適切で効率的な学校事務の執行に資している。 	坂元中
			A	<ul style="list-style-type: none"> 教員の負担軽減となる事務処理等具体的な取組が見えるよう進めている。 	山下中

基本方向4 家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
親の「学び」と「子育て」の支援	子育てに関するスキルの向上を図るため、子育て期間中の親と、支援を行う関係諸団体等に対し、有益な情報や学習機会を提供する。	子育てサポーターの養成	A	・子育てサポーターリーダー、子育てサポーター養成講座に3名が参加して研鑽を積み、資格を得ている。他のメンバーについても可能な講習に参加し、自己の修養に努めている。	生涯学習課
			B	・子育てサポーターリーダー・子育てサポーターの養成に向け、人材の発掘、研修参加への支援を行った。	子育て定推課
		家庭教育支援チームの活動支援	A	・定例会開催の補助、研修会の実施補助などを行い、チームの運営に関して環境の整備や各機関との連絡調整などを行い、活発な活動になるよう促すことができた。	生涯学習課
			B	・こどもセンターを中心とした活動拠点の維持管理に努めた。	子育て定推課
		子育てサークルの活動支援	A	・サークルメンバーによる自主的な活動になるようにという意識を念頭に置き、活動支援にあたってきた。メンバー同士での交流や幼児の友達作りの場になっている。	生涯学習課
			B	・こどもセンターを中心とした活動拠点の維持管理に努めた。	子育て定推課

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的事項⑦**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域学校協働本部の設置に向けた要綱の作成、人材の確保、本部の組織化と運営	A	・学校で地域学校協働本部・協議会を開催したことによって、現場の教員の生の声を元にした各校のニーズに対応することが出来た。引き続き各学校との連携を強めていく必要がある。	生涯学習課
		地域人材を活用した学校教育活動の支援	B	・地域の関連団体との連携しながら学習することができた。また、体力運動能力テストや持久走大会、家庭科（ミシン）の支援も職員数の観点から効果的だった。	坂元小
			A	・協働教育コーディネーターの支援により、地域人材を活用した教育活動が展開でき、学習効果が高まった。	山下小

地域学校協働本部の設置・運営と地域学校協働活動の推進	地域学校協働本部を設置し、地域学校協働活動を推進することにより、地域と一体となった協働教育の充実を図る。	地域人材を活用した学校教育活動の支援を図る。	A	・子ども見まもり隊の発足、読み聞かせボランティア、栽培活動ボランティア等、有効に活用することができた。	山一小
			A	・読み聞かせボランティア・イチゴ農家・民謡講師など、協働教育として多くの地域人材の方に支援をしていただき、学習が充実した。	山二小
			A	・総合的な学習の時間において、地域の方々に職場体験や講話をお願いするなど、地域と協働して学習を展開することができた。	坂元中
			A	・職場体験の引き受け先事業所との調整をしていただき、生徒の有意義な体験学習が実施できた。	山下中
			A	・ボランティアの方々の協力の元、各学校で必要としている支援要請に応えることが出来た。	生涯学習課
	放課後子ども教室などの活動を通じ、児童生徒の人間形成を図る。	放課後子ども教室活動の充実	B	・地域のボランティアスタッフの協力により、放課後子ども教室（はまっこキッズ27回、みやまっこクラブ21回）を開催した。 ・子どもたちが興味を持てる活動を計画し、安心して活動できる雰囲気づくりを行うことが課題である。	生涯学習課

(3) 子どもたちの体験活動の推進 **重点的事項⑧**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施	B	・児童の地域交流や世代間交流への呼びかけや休日の参加が困難になってきている。	坂元小
			B	・社会科や生活科、総合的な学習の時間において、地域の自然や文化財及び地域の人材を活用した教育活動を行った。	山下小
			B	・放課後児童クラブでは、地域の方々と関わりを持ちながら楽しいひとときを過ごしていたようだった。	山一小
			A	・生活科における昔遊びをおじいさんおばあさんに教えてもらう活動、リンゴやイチゴを栽培するおじいさんおばあさんから果物を育てるお話を聞く活動等を実施した。	山二小
			B	・地元の敬老会とグラウンド・ゴルフを行い、世代間の交流を深めた。	坂元中
			B	・初任者研修（1年目）の場として設定され、地域の方々と交流を図ることができた。	山下中

地域を知り、地域と交流する体験活動の推進	子どもたちの学習・社会活動を充実させるため、地域の教育資源を活用しながら、次世代を担う地域リーダーの育成、地域コミュニティとの連携強化、世代間交流の推進を図る。	地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した世代間交流事業（やまもと楽校等）の実施	A	・「子どもも大人も遊び隊」や「やまもとスポーツ祭り」の開催により、幅広い世代間交流事業を行うことが出来た。	生涯学習課
		地域の教育資源（ヒト・モノ）を活用した学校と地域との協働による児童生徒への指導	A	・地域の方から直接指導を受けることを通して、地域の芸能に興味を持ち、活動に参加する児童が出てきた。	坂元小
			B	・生活科での町探検や総合的な学習の時間での地域の産業・郷土の開発・防災教育などに取り組んだ。	山下小
			A	・5年生のはらこめしづくりは、地元ならではの学習であり、この体験は忘れられない思い出となる。	山一小
			A	・読み聞かせボランティア、ミシンボランティア、調理実習ボランティア、公園清掃活動など、町の生涯学習課や地域学校協働本部にお世話頂いた学習活動がたくさんあり、児童への指導が充実した。	山二小
			B	・職場体験学習において、地域の企業等でご指導を受けた。ただ、3月に予定していた坂元おけさの体験は、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。	坂元中
			A	・家庭科や音楽科で、地域の方からの学習支援を受ける調整をしていただき、生徒の有意義な体験学習が実施できた。	山下中
			A	・地域人材の専門性を生かし、見守り活動や職場体験活動、助産師の講話等の様々な活動を行うことが出来た。	生涯学習課
県事業（みやぎ県民大学等）を活用した青年活動の活性化支援	N	・実施なし	生涯学習課		

(4) 家庭教育の充実

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
基礎学力の定着	「山元の子ども3つの約束」の活用 「家庭学習の手引き」の共有と家庭学習の充実を図る 「はやね・はやおき・あさごはんが んぱりカード」を使用した児童と保護者への啓発活動を行う。	基本方向1に記載	B	・「3つの約束」は、常に児童生徒の意識化を図ると共に、ノーメディア・デーの設定など各学校ごとに工夫ある実践を行った。家庭学習においては自学自習の態度が身につくよう、秋田県東成瀬村の先進事例なども参考に意欲的な指導を行い、基礎学力の向上を図った。	教育総務課

家庭教育推進事業	協働教育の一環として、家庭教育学級や家庭教育関連事業の充実を図るとともに、親子のふれあいの機会を拡充し、家庭と地域、学校、行政が一体となって家庭教育の活性化に努める。	家庭教育学級・幼児学級の開催	A	・来年度の就学児童や保護者との連携が強まり、児童の実態の把握や保護者の不安の解消につなげることができた。	坂元小
			A	・年間3回実施し、児童の実態把握や保護者同士の交流など、効果的に実施された。	山下小
			A	・山元町ならではの行事。入学前の保護者が学校に足を運べる機会をもつことは、不安の解消につながる。	山一小
			A	・幼児学級の中で、学校で遊んだり、絵を描いたり、親子でふれあいをもてたりしたことは、地域・家庭・学校が協働で家庭教育を活性化させることができた取組であった。	山二小
			B	・スマホに関する講演会を親子で聴いて、スマホ等の利用についての留意事項を確認した。また、親子スポーツ大会も行った。	坂元中
			B	・新入生保護者説明会の際に外部講師を招き、携帯電話等の安全な利用等に係る講座を開き、トラブル防止に役立った。	山下中
			A	・就学予定の保護者を対象に家庭教育学級を行うことで、子どもに対する理解をより深め、より良い親子の在り方や、周囲とのかかわり方について考える機会につながった。	生涯学習課
		家庭教育講座の開催	A	・月1回程度、様々なテーマで「ちびっこひろばきり☆」を開催し、講座内容で家庭教育の充実を図るとともに、参加者同士のつながりづくりに寄与した。	生涯学習課
		親子ふれあい事業の開催	B	・深山山麓少年の森において、「つくって遊ぼう少年の森」を開催し、親子が自然の中で遊ぶ機会を提供した。	

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向5 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

(1) 伝統・文化の尊重

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むた め、地域に伝承する文化財等に触れ 親しむ機会を提供する。	各教科等での指導を通じた日本の歴史や文化を 尊重する態度の育成	B	・社会科や生活科の校外学習等をとおして、いろいろな地 域に住む人々の生活や文化があることや地域の結び付きに 気付くことができた。	坂元小
			B	・主として高学年の社会科において、学習指導要領のねら いに基づいた指導を展開した。本町と修学旅行先の会津若 松市を比較・検討することで、地域の特性に気付くととも に大切しようとする心情を高めることができた。	山下小
			B	・線刻壁画など非常に貴重な遺物をさらに活用できない か、子どもたちが発信できないか検討していきたい。	山一小
			A	・社会では町内の施設を見学し、「郷土を拓く」の学習で 地域の先人の功績について学んだ。また地域の産業や歴 史、震災復興の軌跡などを学んだ。	山二小
			B	・道徳科や社会科を中心にして、歴史や文化を学びなが ら、尊重する態度の育成を行うことができた。	坂元中
			B	・体育の武道の学習において、日本固有の礼法や歴史につ いての学習を行った	山下中
		(小学校) 社会科副読本の改訂版作成と配布	A	・副読本の編集委員が中心となり、改めて故郷の良さを職 員間で共有したり、児童との結びつけを考えたりするこ とができた。	坂元小
			A	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本 の編集作業を行った。	山下小
			A	・大人も使える山元町のハンドブックとも言えるものがで きた。資料等も新しくなり、各学校で是非とも活用してほ しい。	山一小
			A	・改訂委員会の皆さんにより、平成31年度時点の山元町 のよさや歴史、震災と復興などを充実した内容で改訂して 頂いた。	山二小

歴史や伝 統・文化の 理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むた め、地域に伝承する文化財等に触れ 親しむ機会を提供する。	(小学校) 社会科副読本の改訂版作成と配布	A	・新学習指導要領に対応して内容の改訂を行うと共に、新たに、震災からの復興と新たなまちづくりの章（「安心してらせるまちをつくる」）を追加、新たな図版や写真の入れ替え、データの更新を行い、予定通り年度内に副読本改訂版を完成させることができた。全ページのPDFデータを掲載した資料編DVDを合わせて活用することでさらに学習効果上がる。	教育 総務課
		歴史民俗資料館に収蔵されている地域の歴史資料等を活用した歴史授業の実施	B	・3学年の学習内容と関連付けた。昔の道具等は3学年でよいが、線刻壁画等は高学年や中学校で位置付けた活用が望ましい。	坂元小
			B	・6学年の社会科の学習で活用し、町の歴史や文化に関心を持ち、理解を深める一助となった。	山下小
			B	・昔の暮らし（3年）、線刻壁画（6年）等、貴重な歴史的財産があるので、各校を回って説明する事があっても良いと思う。	山一小
			A	・線刻壁画の収蔵により歴史の学習としてより活用しやすくなった。「せんこくん」のキャラクターが楽しく、子供たちが興味を持って歴史学習に取り組んでいる。	山二小
			N	・利用していない。	坂元中
			N	・利用無し	山下中
			A	・合戦原遺跡「線刻壁画」をはじめとした展示物を活用し、歴史授業の一環として見学会や勾玉・鏡づくりといった歴史ものづくり体験講座を実施した。	生涯 学習課
		神楽や太鼓など、地域に受け継がれている無形文化財を活用した授業等の実施	A	・「こども神楽」や「子どもおけさ」の伝承を通して思いや願いを知り、地域の方々に披露したり、交流したりすることができた。	坂元小
			N		山下小
			B	・他校での実践はとても参考になった。山一小学区も調べてみる価値はある。	山一小
			A	・山二輪太鼓、笠浜甚句、花釜音頭等伝統文化を学ぶ授業を行い、地域の皆さんに喜んで頂きながら、自己有用感などを高めることができた。	山二小
			N	・3月に坂元おけさ体験を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止の観点から臨時休業となり、実施できなかった。	坂元中
			N	・活用無し	山下中
B	・昨年度に引き続き「伝統伝承芸能まつり」を開催し、地域の伝統芸能の継承活動を支援した。	生涯 学習課			

歴史や伝統・文化の理解と尊重	郷土に対する誇りや愛着を育むため、地域に伝承する文化財等に触れ親しむ機会を提供する。	地域と関わる活動や体験の推進	A	・地域の特産物から地域の特性を知り、農業や漁業等、食文化について、校外学習の体験活動に学習への深みを感じられるようになった。	坂元小
			A	・地域の特産物であるイチゴやリンゴの学習を通して地域理解を深める一助としている。 ・みやまフェスティバルを開催し、地域の方々を招き交流している。	山下小
			B	・学校の北側に日吉神社があるので、これも調査してみる価値あり。	山一小
			A	・民謡大会出場、山二輪太鼓の夏祭り参加、山二ふれあいまつりでの保護者や地域の方とのふれあいを通じて地域の方とのふれあいや郷土に対する愛着を育んでいる。	山二小
			B	・坂元おけさは体験できなかったが、敬老会とのグラウンド・ゴルフ交流会を行った。	坂元中
			B	・ふれあい産業祭にボランティアとして協力参加した。	山下中

(2) 国際理解を育む教育 重点的事項⑨

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	各教科等での指導を通じた異文化理解とそれを尊重する態度の育成	A	・社会科や外国語活動の中で世界の国々の暮らしや文化、日本とのつながりを学び、ALTの母国の異文化などに触れることができた。	坂元小
			B	・外国語活動や総合的な学習の時間を活用して、外国の歴史や文化への理解を深め、交流しようとする意識を高める指導を行った。	山下小
			B	・社会科、外国語活動での学習で外国の文化について学んでいる。	山一小
			A	・外国語活動、社会、国語、道徳などの学習内容を通して異文化の理解とそれを尊重する態度が養われてきている。	山二小
			B	・道徳科、英語科、社会科を中心として指導した。ALTが自国の文化を紹介し、生徒が異文化にふれる良い機会となった。	坂元中
			B	・英語科だけでなく、社会科や道徳などでの指導により異文化の理解と尊重する態度を育てた。	山下中

国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	地域人材やALT等を活用した交流（体験）活動の推進	B	・ALTとのインタビューゲームやハロウィン、クリスマス等の日本との文化の違いについて知ることができたが、地域人材との交流による学習が課題である。	坂元小
			A	・ALTやJTEと積極的な交流が図られ、児童の異文化理解につながった。	山下小
			A	・ALT、外国語指導補助員による指導で、外国語だけでなく、その文化も学習することができている。	山一小
			A	・ALTやJTEの先生を通じて外国語交流体験を十分に行うことができている。コミュニケーション能力や表現力の向上にもつながってきている。	山二小
			B	・地域の方を講師に「山元町の歴史」を学んだり、前述したようにALTから異文化を学んだり、自分の住む町や他国の歴史を学ぶことができた。	坂元中
			B	・英語暗唱弁論大会の指導等でALTを積極的に活用した。	山下中
			A	・ALTが適正に配置され、学習に興味をもてるような手立てや指導計画をもとに外国語指導補助員と分担して学習効果をあげることができた。	坂元小
	小・中学校へのALTの配置と活用	A	・年間を通して計画的に配置されている。 ・ALTとの関わりにより、児童が刺激を受け、コミュニケーション能力の向上につながっている。	山下小	
		A	・ネイティブな英語に触れる機会、日本人とは違った社会的な感覚など、貴重な学習の機会となっている。	山一小	
		A	・ALTが年間週1回ずつ適切に配置されて、安定的にネイティブの外国語に触れて学習できることは、とても良い刺激となっている。	山二小	
		A	・隔週でALTが配置され、英語の授業において適切に効果的に活用された。	坂元中	
		A	・ALTを多くの授業に活用することで、生徒の興味関心を高め、ネイティブの発音に触れる機会を得ることで、大きな教育効果が上がった。	山下中	
		A	・小・中に各1名のALTを配置し、外国文化の理解も含めた外国語教育を円滑に進めることができた。	教育総務課	

国際理解教育の推進とコミュニケーション能力の育成	地域や日本の伝統・文化とともに、他国の歴史や文化に対する理解を深めさせ、国際化社会で活躍できる人材を育成する。	新学習指導要領に対応するため小学校への外国語指導補助員の配置と活用	A	・ALTと合同で授業をつくることで、役割分担による相乗効果が生まれ、児童の学習意欲を高めることができた。	坂元小
			A	・外国語指導補助員の配置により、指導がさらに効果的に展開されている。ALTとの連携もよく図られている。	山下小
			A	・現在の指導補助員は、元中学校英語教員であり、これほど恵まれた人材を得て補助していただいていることは大変貴重である。	山一小
			A	・新学習指導要領の導入を見据え、外国語担当教諭とALT、JTEが協力し、児童が外国語に親しみや安心感を持って取り組めるような教材づくりをすることができた。	山二小
			A	・4小学校へ外国語指導補助員1名を配置したが、小学校ALTおよび各校担当教員と連携をとりつつ学習の成果を上げることができた。	教育総務課

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
生涯学習・文化芸術の振興	生涯学習関係機関並びに文化芸術団体等と連携を図り、生涯学習・文化芸術に身近に親しむ機会を提供する。	町広報誌やホームページ等を通じ、関係機関・団体等が開催する展示会や発表会の情報提供	B	・広報紙で文化協会が主催する「地域伝統芸能まつり」の情報提供を行った。しかしながら、ホームページ等他媒体の活用が不十分であったため、更なる活用を行う必要がある。	生涯学習課
		国や県の事業（巡回小劇場等）の積極的な活用	A	・学習発表会前に巡回小劇場を活用できたため、声の出し方や表情、動きなど、劇に取り組む参考になった。	坂元小
			N	・令和元年度は、行っていない。（但し、民間の仙台オーボエクラブ「Aulos」によるアンサンブルコンサートを実施した。）	山下小
			N	・元年度は行っていない。	山一小
			A	・プロの音楽家グループの美しい演奏と、児童の複製楽器（プラスチック製）を利用した演奏体験のプログラムで、大変興味深い芸術体験ができたので良かった。	山二小
			N	・活用しなかった。	坂元中
			N	・実施せず ・次年度開催の申請中	山下中
			B	・坂元小学校を会場に、宮城県巡回小劇場による人形演劇「八郎」を実施した。	生涯学習課

(2) 文化財の保護と活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
文化財の保存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	文化財標柱の更新等	A	・町指定文化財茶室・囊首城大手門・板倉に関する説明板1基の新設を行った。	生涯学習課
		社会科副読本の作成（掲載検討・指導）	A	・編集委員が中心となり、児童が故郷の良さや特色を感じられるような教材や学習を深められる画像等を協力しながら検討することができた。	坂元小
			A	・主として中学年において活用を図ることができた。 ・新学習指導要領のねらいや地域の実情に合わせた副読本の編集が進行中である。	山下小

文化財の保存・保護	各種文化財の適切な保存・展示及び活動場所の環境整備に努め、文化財保護の普及・啓発を図る。	社会科副読本の作成（掲載検討・指導）	A	・今年新しい副読本が完成・配布という運びになった。貴重な資料も掲載されているので、ぜひ活用してもらいたい。	山一小
			A	・児童にとって自分の育った土地の、大昔から伝わってきた文化財を知り、生まれ故郷の特徴を肯定的に理解することに役立つので、掲載については、とても素晴らしいことだと考える。	山二小
			A	・近年の発掘や研究成果を反映したページを作成した。改訂版社会科副読本に掲載することで、文化財保護へ向けた意識の向上を図っていく。	教育総務課
		無形文化財伝承団体に対し、関係する機関や団体等が開催する発表会等の情報提供	B	・無形文化財伝承団体に対し、町民文化祭での出演依頼を行い、発表の機会の提供を行った。	生涯学習課
		町指定文化財「茶室」とその周辺の活用方法等の検討	B	山元町指定文化財茶室等整備・活用検討委員会において、茶室の利活用に関する検討を行い、「山元町指定文化財茶室・葦首城大手門・板倉等整備基本計画」を策定した。	
発掘出土品を活用した歴史ものづくり教室の開催	A	・「古代の鏡」「勾玉」を製作し、出土品に触れてふるさとの歴史を身近に思えるようになったとの意見が多かった。			

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的事項⑩**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
社会体育施設の整備・充実	競技人口の推移を見据えた長期的な視点での活用計画を検討する。	町民グラウンドの復旧及び備品等の整備	A	・スポーツ施設等の整備に充当するため、スポーツ振興くじ助成金の申請を行い、一定額獲得できる見込みを得た。	生涯学習課
		町民グラウンドの機能拡張を図るための計画・設計	A	・令和2年度の工事発注に向け、庁内外への事業説明を行うとともに工事費の予算措置を行った。	
	体育文化センター等の施設の修繕及び器具の更新を計画的に実施する。	スポーツ振興くじ等を活用した運動器具の更新	N	・事業終了	
学校施設の開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整を行い、各施設の効果的な利活用を図る。	利用調整を図るための関係団体間の定期調整会議の開催	A	・利用団体の責任者が学校の地域人材や保護者になっているため、学校や利用団体相互の連携が図られている。	坂元小
			B	・定期調整会議は開催していない。利用団体が校庭・体育館とも一つのため、責任者との個別対応でスムーズな利用ができていない。	山下小
			B	・利用団体が一つ（少年野球）のため、調整はしていない。避難所となったときの外トイレの活用が課題である。（電気は付かないものだろうか。）	山一小
			B	・関係団体との定期的な調整会議は行っていない。利用団体が少ないため、学校担当者が関係団体の責任者と利用調整を行うことで全体の掌握に努めている。	山二小

学校施設の開放推進	社会体育施設と緊密に利用調整を行い、各施設の効果的な利活用を図る。	利用調整を図るための関係団体間の定期調整会議の開催	N	・本校では、定期的に利活用する団体がなかった。	坂元中
			C	アリーナで3団体、武道場で2団体の定期利用に加え、町外利用者を含む大会等の申請が複数回あり、貸与条件や調整が必要である。	山下中
			A	・定期利用団体に対し町民グラウンド及び町民体育館の利用調整を行った。	生涯学習課
			C	・各学校にて事前調整のうえ、申請を受け付けており、現在のところ混乱なく調整が実施されているが、定期調整会議は行っていない。 ・令和2年度からは、定期調整会議を実施する予定である。	教育総務課
	効率的かつ効果的な利活用の促進		A	・利用団体と定期的に連絡を取り合って日程を調整するなど、問題なく活用している。	坂元小
			A	・学校の校庭や体育館は計画的に開放し、利用されている。	山下小
			A	・使用後はきちんと元通りになっている。	山一小
			B	・定期利用の団体は固定化されている。効果的な利活用の面では、地域住民への周知や鍵の管理等の工夫が必要である。	山二小
			B	・積極的な利活用の促進はしていないが、地域より利用の申し出があったときには、積極的に開放している。	坂元中
			C	・休日の学校部活動の利用制限をしてまでも、校外他団体（特に町外を含む広域参加を見込む大会等）への貸与が必要であるか、疑問であった。学校外の社会体育施設の利用を促したい。	山下中
		B	・社会体育施設の定期利用団体調整会議を実施し、利用者の意見を踏まえ、効果的な利活用に努めた。	生涯学習課	
		B	・各学校において、施設の効率的かつ効果的な利活用について促進に努めている。 ・令和2年度からは、定期調整会議を実施する予定であり、利用団体と意見交換することで、より効率的かつ効果的な利活用の促進に努める。	教育総務課	

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表

基本方向7 防災教育をととした命を守る意識の高揚

(1) 防災教育の推進、充実 **重点的事項⑩**

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	計画に基づいた総合的な学習、各教科等での防災教育の推進	A	・年間10時間を総合的な学習等の中に位置付けるとともに、避難訓練等の学校行事とも関連させながら、系統立てて実施している。	坂元小
			B	・学校防災マニュアルを整備するとともに、総合的な学習の時間に防災教育を年間10時間位置付けている。	山下小
			A	・命を守る防災教育として、安全に計画的に実施することができた。	山一小
			A	・中浜小学校の見学、防災施設としてのひだまりホールの見学等新たな活動が増え更に充実した。	山二小
			A	・避難訓練や避難所開設訓練を年間計画に位置づけて、計画的に実施した。	坂元中
			A	・教科ごとに計画を見直し、実施率も上がっている。	山下中
		みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等を活用した指導の充実(小学校H 32～)	A	・主幹教諭が中心となり、みやぎ防災教育副読本「未来への絆」を総合的な学習の時間の年間指導計画に位置付け、防災教育を推進している。	坂元小
			B	・防災教育年間計画に位置付けて、総合的な学習の時間や学級活動などで指導を行った。	山下小
			B	・避難訓練等で役立った。社会科副読本は、東日本大震災関連の部分で防災に関する学習を進めることできる。	山一小
			B	・みやぎ防災教育副読本や町社会科副読本等の活用を総合的な学習の時間や教科における防災教育の年間指導計画に位置付けて、指導の充実を図っている。	山二小
			B	・総合的な学習の時間の防災についての学習の時間に活用した。	坂元中
			B	・各教科等でも活用している。	山下中
			A	・社会科副読本に防災教育に係る内容の改訂・追加を行い指導の充実を図っている。	教育 総務課

大震災の教訓を生かした防災教育の推進	学校における防災教育を通して、「自助」「共助」の重要性の理解、減災につながる技術の習得等を図る。	校内における避難訓練の実施など	A	・児童自身が避難ルートを確認したり、身の安全を確保したりするなど、自ら判断し、行動できるような訓練を実施している。	坂元小
			A	・避難経路確認、地震・津波・火災想定避難訓練の他、防犯訓練・一斉下校訓練・引渡し訓練等を計画に基づき実施した。	山下小
			A	・計画的に、速やかに安全に実施することができた。	山一小
			A	・教育計画に基づき各種訓練を実施した。実施後に改善点を話し合い次回につなげている。	山二小
			A	・避難訓練や避難所開設訓練の際には、生徒一人一人が真剣に取り組み、良い活動ができた。	坂元中
			A	・日程に変更等はあるものの、計画通りに実施できている。	山下中
	宮崎市との交流事業により、防災意識の高揚を図る。	隔年で相互訪問	A	・参加した生徒は、震災について伝えるために準備をするなど、防災についての意識を高めた。	坂元中
			A	・学校としては、計画的に準備し訪問することができた。特に、訪問にかかわりの深かった生徒は意識も高まったと思う。	山下中
			A	・令和元年度は本町の中学生が宮崎市を訪問し、学校の防災の取組等を発表し両市町生徒の防災意識を高めることが出来た。	教育総務課
	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設での防災学習	A	・低学年の町探検や高学年の施設見学など、教育課程に位置付けて学習を進めることができた。	坂元小
			B	・町防災拠点施設の山下地域交流センター「ひだまりホール」で見学・体験学習を行った。	山下小
			A	・語り部の会の方にボランティアとして参加していただき、大変貴重な学習をすることができた。	山一小
			A	・計画に基づき、防災施設としてのひだまりホール内の見学と防災学習を行った。	山二小
			N	・活用していない。	坂元中
			B	・防災拠点施設山下地域交流センター「ひだまりホール」の機能を周知し、次年度の見学計画を立案した。	山下中

大震災の教訓を生かした防災教育の推進	町施設を活用した防災学習を推進し、各種事業を通して防災に対する意識高揚を図る。	町防災拠点施設での防災学習	A	・宮城県警察音楽隊による避難訓練コンサートを開催し、地域住民の防災意識を高めることができた。 ・町内小中学校の防災学習の一環として施設の見学を受け入れ、子どもたちの防災・減災の知識を高めることができた。	生涯学習課
		防災キャンプの開催	A	・小中学生の児童生徒を対象に、山元町防災拠点・坂元地域交流センターで防災キャンプを開催し、マンホールトイレ設置などの学習を行った。	生涯学習課
		避難所体験事業の開催	B	・小中学生、大学生および一般の見学者を対象に、備蓄倉庫等、施設内の案内やマンホールトイレ設置体験等を行った。	

(2) 地域の自主防災訓練や町総合防災訓練への参加

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	学校及び幼稚園・保育所・町危機管理室等による防災担当者会の開催とその充実	A	・定期的に町の防災対策や地域連携について意見交換ができていたことはよかった。ただ、防災の担当者が入れ替わり、難しい状況もある。	坂元小
			B	・防災主任を中心に関係機関との連携や情報交換がなされ、校内で共有している。	山下小
			A	・防災担当者会の開催により、町の総合防災訓練への協力体制が確認できた。	山一小
			A	・防災担当者会が開催され、校内での共通理解を図り、関係諸機関との連携がとれた。	山二小
			B	・担当者が会議に参加し、内容等については校内で情報共有した。	坂元中
			A	・町総合防災訓練の準備等の連携や、研修等充実した内容となった。	山下中
			A	・定期的に防災担当者会に出席し、児童・生徒参加型の防災訓練について協議し、連携を図ることが出来ている。	教育総務課
		学校と各地区自主防災会との連携による防災体制の確立	B	・区長や学校評議員会、地区の見守り隊等の定例会で防災について意見交換することはできている。有事に実際の連携について事前に協議する場が必要である。	坂元小
			B	・町総合防災訓練では、各地区で計画された訓練に児童とともに参加できた。また、地区の中での児童の動きについて確認できた。	山下小

関係機関等との連携	東日本大震災の被災経験を生かすため、地域・関係機関等との連携を密にし、地域・町を挙げて防災教育の推進・充実を図る。	学校と各地区自主防災会との連携による防災体制の確立	A	・教員が担当地区に赴いて、地区の防災訓練に参加し、協力の仕方について意見交換することができた。	山一小
			A	・各地区が主体となった防災訓練が行われ、児童の訓練参加の様子について職員が見守り、確認した。終了後、校内検討を行い、連携の在り方を振り返って次回に生かすようにした。	山二小
			A	・町の総合防災訓練では、教員が生徒と一緒に各地区の防災訓練に参加し、連携を深めた。	坂元中
			A	・自主防災会と連絡を取り、生徒の訓練参加の様子を確認した。	山下中
			N	・各学校単位での連携となっている。教育総務課主体での各学校と地区防災会を連携させる会議等は実施していない。	教育総務課
児童生徒の防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	学校を登校日とした町総合防災訓練への参加（居住地域ごとの避難訓練及び研修）	B	・登校日を設定し、居住地ごとに地区の訓練に参加することができた。浸水区域の避難場所設定等、実効性のある訓練になるよう検討がある。	坂元小
			B	・登校日とすることで、親子で参加し、防災への意識を高める契機となっていると感じられる。定着させるために継続した取組が必要である。	山下小
			A	・町の総合防災訓練への参加により、児童が地域の一因としての所属感を養ったり、自己有用感の育成に役立った。	山一小
			A	・各地区で実施した訓練に積極的に参加し、災害発生時の対応力も身に付ける努力をしていた。	山二小
			A	・登校日として各地区の防災訓練に参加し、地域の一員として様々な体験をした。	坂元中
			A	・事前の計画を立て、学校としても積極的にかかわることができた。	山下中
			A	・児童、生徒が参加することにより、自らの避難行動について意識付けが図られている。 ・さらに、高学年児童及び生徒にあっては、有事の際の避難所等における自分の役割に対する理解も深まってきており、その活躍が地域から認められ評価されているだけでなく、即戦力として期待されている。	総務課
			A	・学校を登校日とすることで、児童生徒が参加する環境を整えることで、災害発生時の対応力を身に付けさせることに繋がっている。	教育総務課

児童生徒の 防災訓練への参加	町総合防災訓練並びに地域で行われる自主防災訓練に積極的に参加させ、災害発生時の対応力を身に付けさせる。	地域で行われる自主防災訓練への積極的な参加の呼びかけ	B	・地域の訓練は少ない状況なので、災害の種類により、どのように訓練するのか家庭で事前に話し合っておくことを呼びかけていく必要がある。	坂元小
			B	・自主防災訓練の日程や内容について把握し、災害発生時の地域の動きを知るために、積極的に参加するよう働き掛けていく。	山下小
			B	・参加することで地域から小学校児童の活動ぶりを認知されることが多い。喜びの声が寄せられる。	山一小
			A	・地域の方とともに積極的な参加がうかがえた。	山二小
			A	・登校日としたので、参加可能な生徒は全員、地区の防災訓練に参加した。	坂元中
			A	・地区で行われる行事への参加を呼びかけた。地区担当教員が訪問し、一緒に活動した。	山下中

(3) 震災遺構の活用

項目	取組のねらい・概要	具体的な取組	令和元年度		担当課 学校等
			評価	成果と課題	
旧中浜小学校震災遺構保存活用事業	東日本大震災の脅威・教訓を風化させることなく伝承し、後世に防災・減災の意識・知識を向上させるため、震災により被災した旧中浜小学校を「震災遺構」として保存・活用を図る。	震災遺構としての整備・保存	A	・令和2年度の公開に向け、校舎改修及びメモリアル広場整備工事等を行った。展示物設置や案内冊子制作を繰越したが、公開に向け順調に推移している。	生涯 学習課
		防災教育としての活用	B	・やまもと語りべの会と開館後の管理運営について意見交換を行い、防災教育の振興を図る取組を行った。コロナ禍による来館者減少への対策が課題となる。	

点検評価の集計

担当学校等	評価項目数	A		B		C		D		N	
		項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%	項目数	%
坂元小学校	78	56	71.8	19	24.4	1	1.3	0	0	2	2.6
山下小学校	78	55	70.5	19	24.4	0	0	0	0	4	5.1
山下第一小学校	78	56	71.8	20	25.6	0	0	0	0	2	2.6
山下第二小学校	78	61	78.2	16	20.5	0	0	0	0	1	1.3
坂元中学校	76	46	60.5	21	27.6	2	2.6	0	0	7	9.2
山下中学校	76	45	59.2	22	28.9	3	3.9	0	0	6	7.9
教育総務課	54	26	48.1	22	40.7	2	3.7	1	1.9	3	5.6
生涯学習課	34	23	67.6	10	29.4	0	0	0	0	2	5.9
総務課	1	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0
子育て定住推進課	5	1	20	4	80	0	0	0	0	0	0
合 計	558	370	66.3	153	27.4	8	1.4	1	0.2	27	4.8

IV 学識経験者の意見書

◇ はじめに

東日本大震災から9年目を迎え、その間に全ての世代が快適に暮らせるコンパクトシティの理念のもとに「つばめの杜地区」をはじめ3地区に新市街地を整備し、また山元町子どもセンター、山下第二小学校、山元町防災拠点・坂元地域交流センター、同・山下地域交流センターなどが完成し、教育環境のハード面が着実に整備されるなど山元町の復興は順調に進行し、各学校における教育活動もしっかりと実施・運営されている。特に東日本大震災の脅威を伝承し、風化防止や防災意識の向上を目的として「震災遺構 中浜小学校」の整備も着実に進められている。

また、平成29年3月には「山元町教育振興基本計画」が策定され、山元町における教育振興を総合的かつ計画的に進めるとともに重点事項を中心に実践的な取組が開始されている。

しかし、これまでも指摘したことではあるが、阪神・淡路大震災等の大規模な被災地域においては児童生徒の生徒指導上の問題が10年以上の長期にわたるなど様々な課題が報告されている。このことについては後述するが、本県において小中学生等の深刻な「いじめ問題」や「不登校」の状況が発生していることから山元町においても、常に課題・問題意識を持って日々の教育活動に取り組んでいかなければならない。

さらに全国的な少子高齢化の進行に歯止めがかからないという憂慮すべき状況が続き、山元町においては更に東日本大震災の影響が加わり児童生徒数の減少は顕著なものとなっている。一部の小学校では令和2年度から複式学級編制が実施されているとのことであるが、小・中学校の再編事業と再編実施までの期間の教育環境の整備には特段のご配慮を願うものである。

また、山元町においては児童生徒の学力の向上についても大きな問題意識を持って取り組んでいく必要がある。

意見を述べる機会をいただいたので、令和元年度の取組と成果を見ていくとともに幾つかの事項についてささやかな提言をしたい。

なお、紙面の関係から網羅的に意見を述べるのではなく、特に必要と判断した事項についてのみ意見を述べることにする。

1 教育委員会の活動について

教育委員会制度の改正に伴い、教育委員長と教育長を一本化した教育長のリーダーシップの下に課題に迅速に対応できるようになった。「定例会」、「臨時会」、「山元町総合教育会議」、「教育委員による教育機関訪問」等がそれぞれ適正に実施され、所定の事案等が適正に審議、処理されている。

2 教育関係経費決算の状況

教育関係経費が適正に正確に執行処理されていることが明確である。国民の貴重な税金が使われていることを改めて肝に銘じて教育行政と教育活動にあたっていただきたい。

なお、子どもの貧困問題が極めて大きな社会問題となっている状況下において「就学援助事業」については細心の注意を持って積極的に運営されることを引き続きお願いしたい。

3 学校教育の充実

(1) 小・中学校再編検討について

小・中学校の再編等について平成30年12月に「山元町小・中学校再編方針」が策定され、詳細な現状分析と多方面から丁寧な意見聴取・アンケート調査等を実施している。小学校については「10年後を目途に1学校区」中学校については「2021年4月を目途に山下中学校を活用して1学校区」との再編方針が決定されているが、再編までハード・ソフト両面から入念な準備が必要である。

また、今後の山元町の人口動態を注視しながら弾力的な対応についても準備していく必要がある。筆者は県教委の職員として県立高校の再編・統合に取り組んだ経験があるが、再編・統合は多大な労力と多方面からの支援と協力を要する大きなプロジェクトであった。十分な準備と研究をお願いしたい。

(2) 山元町いじめ問題対策連絡協議会について

山元町では令和元年10月21日にいじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ防止対策について協議が行われた。元年度においては7件の認知があり、学校と保護者が連携して指導にあたり、7件全てが解消したとのことである。重大な問題が発生していないことは高く評価したい。今後とも迅速・丁寧な対応により、全ての児童生徒が「いじめのない学校」で安心して学校生活をおくっていくことを願っている。

(3) 子どもの心のケアハウス運営事業について

山元町では元年度から不登校児童生徒の自立及び学校生活への自発的な復帰を促すことを目的にしたケアハウスを設置している。元年度における通所者は中学生だけになっているようだが、今後はケアハウスの相談機能や支援機能を十分に広報して、小学生を含めた不登校児童生徒の解消に努めていただきたい。

(4) 学力向上に向けた教育講演会について

学校における防災意識の向上を目的として小中学校の教員を対象とした研修会が元中浜小学校 校長 井上 剛 様を講師として開催された。『「震災を乗り越えて」～伝えること～』ことと題した講演が実施され、山元町の教育職員約100名の参加があったことは高く評価したい

(5) 学校給食について

社会環境と家庭環境の変化、多様化による様々な課題が社会問題化している中で、学校給食の果たす役割は大きくなっている、様々な課題に対応しながら安定的な学校給食が維持されていることには敬意を表したい。また、山元町には栄養教諭が配置されていることにより、食育の面から大きな教育効果を期待している。

4 生涯教育の推進について

山元町において多種多様な生涯教育に関わる活動が活発に行われてことが資料から読み取れ、関係各位のご努力に敬意を表したい。

山元町教育振興基本計画アクションプランに基づく点検評価表について

教育委員会並びに各学校における教育活動等の評価については、A：90%以上 B：70%～C：40%～ D：40%未満 N：評価不能 という方式で自己評価されている。厳しい視点から真摯に自己点検・自己評価に取り組んでいることが窺え、教育に携わる者の一人として、また一町民として各学校の取組に敬意を表したい。

なお、令和元年度は例年よりもC・D評価が極めて少なく、合計9項目、全体の僅か1.6%であった。順調な教育活動の展開と判断出来る状況にあり、C・D評価のあった項目を中心にコメントする。

基本方向1 学ぶ力と自立する力の育成について

(1) 「志教育」の推進について

各具体的な取組については昨年度から各学校ともに概ね高い評価となっているが、「みやぎの先人集」の効果的な活用が出来ずにC評価の報告がある一方、先人の生き方を通して考えさせるのに有効だったとしてA評価の報告があった。町内の学校間で成功事例について情報収集するなどの取組を期待する。

(2) 教科指導力の向上について

C・D評価はなく全ての学校においてA評価という素晴らしい評価結果であり、関係各位のご努力に深く敬意を表するものである。

学力向上にとって最も重要なことは日々の授業実践にあり、教師の教科指導力の向上は最も重要である。

教師が指導力を向上させ「分かる喜びのある授業」を実践していくことが何より重要である。そして、授業力向上には、教材研究と授業研究が重要である。日々の実践的な授業研究を継続していくことであり、イベント化した研究会ではなく日常的な教育活動の中で授業研究を実践・継続していくことを期待したい。優れた授業実践力があるからこそ、家庭学習や少人数指導もより効果を発揮するのである。また、筆者は高校における教職経験が長いですが、トップクラスの進学校とされる高校においても生徒から予習、復習の方法が分からないという声をしばしば耳にした。各発達段階に即した予習、復習の方法の指導も併せてお願いしたい。家庭学習ノート等の実践はなされているが、特に中学校では「課題的なもの」だけでなく自学自習できる力の育成を目指していただきたい。

(3) 学校間、幼稚園・保育所・小学校の連携促進 重点事項②について

C・D評価はなく全ての学校においてA評価がほとんどという素晴らしい評価結果であり、関係各位のご努力に深く敬意を表するものである。

各具体的な取組については各学校ともに高い評価となっている。異なる学校間での授業参観から得られる教育情報は極めて有意義である。指導主事訪問時と限定せずに活発に行われることを期待したい。他の校種、他の教科の教員の授業を参観すること自体が効果の大きく、しかも大きな予算を要しない研修である。中1ギャップ解消について町の小・中学校をあげて取り組むことを、山元町教育の具体的な目標とすることを今年度も継続して提案したい。

(4) 時代の要請に堪えた教育の推進について

校舎及び体育館（避難所）等における Wifi 環境の整備が C 評価であった。
スマホやタブレットの普及状況からみても Wifi 環境の整備は必要と考える。
早急な整備と太陽光等の電源確保も整備願いたい。

基本方向 3 信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 小・中学校再編による未来を拓く学校づくりの推進 重点事項⑤

小・中学校再編に関わる各事項の評価が高いことに安心した。再編・統合は児童生徒にとっては極めて大きなことなので、円滑な再編・統合の進展をお願いする。

(3) 豊かな学びを創造するコミュニティ・スクール（重点事項⑦と関連）

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置と学校運営への反映については、中核となる人材の候補を検討していく必要があるとのことである。少子高齢化が進行している状況下では、学校活動を支える地域人材の確保は大きな課題であろう。町当局及び教育委員会からの支援も必要である。

(4) 学習環境の整備充実と再編に伴い廃校となる校舎の活用

廃校となる校舎の活用が D 評価である。具体的には坂元中学校の校舎施設の活用方法であろう。後述することになるが社会体育における「学校施設の開放推進」における課題と関連させるなど早急な対応を期待したい。

(5) 子どもたちの学びに向き合う教職員を支援する働き方改革の推進

学校給食費の集金方法の見直しで共同調理場の会計担当校としての業務が煩雑で業務多忙となっていて該当校は C 評価としていた。これについては様々な事情等があることは推察できるが、是非とも改善の方向でお願いしたい。

基本方向 6 生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 重点事項⑩

この項目については教育総務課、該当校から合計 3 つの C 評価があった。

特に休日の学校部活動の利用制限をしてまでも、校外他団体への貸与が必要であるか、疑問であった。学校外の社会体育施設の利用を促したいというコメントには切実なものがあつた。廃校となる学校の施設利用を含めて改善をお願いしたい。

総論としては賛成すべき事項だが、具体の実施方法が難しいということの典型的な事例だろう。該当校の実情をよく調査して改善願いたい。

基本方向 7 防災教育をとおした命を守る意識の高揚について

(1) 防災教育の推進、充実 重点事項⑪

各具体的な取組については各学校ともに概ね高い評価となっているが、被災地の学校として防災教育の先進地となるべく更なる努力をお願いしたい。

(3) 震災遺構の活用

旧中浜小学校の活用については山元町防災教育の拠点の一つとして町内外に十分な広報を行い充実した活用を願うものである。

尚綱学院大学

（担当：教育課程部門 特任教授

（元仙台市立仙台高等学校長）

渡邊 典男）

V 参考法令

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなくてはならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。